

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

本條ハ一般脅迫罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百二十六條乃至第三百二十九條) 第一項 本項ハ被脅迫者自身ニ對スル害惡ヲ以テ脅迫ヲ加ヘタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス、即チ(一)人ヲ脅迫シタルコト(二)生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ材料トシタルコト(三)相手方ヲ畏怖セシメントスル目的ニ出テタルコト是ナリ、順次略説スヘシ

第一要件 人ヲ脅迫シタルコト 一般ニ脅迫ト云ヘハ人ヲシテ畏怖心ヲ惹起セシム可キ一切ノ行爲ヲ謂フ、法律ハ脅迫ノ手段ヲ制限セサルヲ以テ言語、文章、形容其他何等ノ方法ニ依ルヲ區別セス又直接ニ被脅迫者ニ對スルト將タ又間接ニ爲シタルトヲ論セス、要ハ人ヲシテ畏怖セシムルノ意思ヲ以テ害惡ヲ相手方ニ通知スルヲ以テ足り被脅迫者カ之ニ因リ眞ニ畏怖心ヲ惹起シタルヤ否ヤ

脅迫者カ眞ニ之ヲ實行スルノ意思アリシヤ否ヤ及ヒ脅迫者カ現實ニ其通知シタル害惡ヲ實行スルノ能力ヲ有シタルヤ否ヤハ共ニ本罪ノ成立ニ影響セサルモノトス

第二要件 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ材料トシタルコト 脅迫者ノ害惡ハ本條列記ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ材料トナシタルコトヲ要ス、例ハ殺害セント云フハ生命ニ對スル害惡タルヘク、毆打其他暴行ヲ加ヘント云フハ身體ニ對スル害惡タルヘク、逮捕若クハ監禁セント云フハ自由ニ對スル害惡タルヘク、惡事醜行ヲ新聞紙上ニ掲載ス可シト云フハ名譽ニ對スル害惡タルヘク、家屋ニ放火シ若クハ之ヲ毀壞スヘシト云フカ如キハ財産ニ對スル害惡タルヘシ、法文ハ唯是等列記ノ法益ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ人ヲ脅迫シタルコトヲ要スルモノナルカ故ニ其如何ナル方法ヲ以テ是等列記ノ法益ヲ侵害セントセルヤノ問題ハ法ノ要求スル所ニアラス

第三要件 相手方ヲ畏怖セシメントスル目的ニ出テタルコト 本要件ニ關シテハ法文ニハ何等明示スル所ナシト雖モ是レ總則ノ適用上疑ナキ所ニ屬ス故

ニ戯レニ汝ノ生命ヲ絶ツ可シト云フカ如キハ相手方ヲシテ畏怖セシムルノ目的ヲ缺クモノトシテ罪責ナシ然レトモ相手方ヲシテ生セシメントスル畏怖心ハ其自由意思ヲ喪失セシムル程度ノモノタルコトヲ要セス是レ強制罪タル夫ノ強盜罪等ニ於ケル脅迫ト區別アル所以ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス、舊刑法ニ比シ刑期一層擴大セラレタリ、蓋シ本法ハ舊法ノ如ク犯情ニ關スル細別的規定ヲ廢シ一般的规定ヲ設ケタル當然ノ結果ナリ

第二項、本項ハ被脅迫者ノ親族ニ對スル害惡ヲ以テ脅迫シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス、即チ(一)人ヲ脅迫シタルコト、(二)相手方ハ親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ材料トシタルコト、(三)相手方ヲシテ畏怖心ヲ生セシメントスル目的ニ出テタルコト、是ナリ而シテ右要件ノ中第一及ヒ第三要件ハ共ニ前項ニ就テ述ヘタル所ニ同シケレハ再說スル要ナカルヘシ

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント云フハ直接被脅迫者自身

ニ對スルモノニ非サルコト勿論ナリト雖モ親族ニ對スル加害ハ之ヲ他人ニ對スルモノト同一視ス可ラス被脅迫者ハ爲メニ畏怖心ヲ生スヘキヲ以テ通例トス故ニ法律ハ此種ノ害惡ノ通知モ亦以テ脅迫罪タルヘキモノトシタリ而シテ法文ハ單ニ親族ト云フノミナルヲ以テ從テ其範圍ハ民法上所謂親族ニ限定セラルヘキモノト解スヘキナリ(民法條七百二十五條參照)

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ニ同シク一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十三條

生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫

シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ

義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ脅迫又ハ暴行ノ結果人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル場合即チ所謂加重脅迫罪ニ關スル規定ニシテ舊刑法ノ缺ヲ補足シタ

ルモノ、一ナリ

第一項 本項ハ被害者自身ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)相手方ノ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒタルコト(二)因テ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルコト是ナリ

第一要件 相手方ノ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒタルコト 本罪ハ被害者自身ノ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ又ハ被害者自身ニ對スル暴行ヲ用ヒタルコトヲ要スルカ故ニ被害者自身ニ對スル危害ヲ以テ脅迫シ又ハ直接ニ被害者ニ對シ暴行ヲ加フルニ非サレハ本罪ヲ構成セス、脅迫ノ意義ニ關シテハ前條說明ニヨリ明カナルヘキニ付再說セス、所謂暴行トハ之ヲ最廣義ニ於ケル不法ノ腕力行爲ト解スヘク必ラスシモ身體ニ對スルヲ要セス又夫ノ強制罪ナル強盜罪ノ手段タル暴行ノ如ク相手方ノ自由意思ヲ喪失セシムル程度ニ達シタルコトヲ要セス

第二要件

因テ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルコト 脅迫又ハ暴行ト義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルコトトノ間ニ因果結果アルコトヲ要ス其他ノ說明ニ關シテハ第九十三條ノ說明ヲ參酌シテ之ヲ了解セラル可シ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス、本罪ハ前條ノ罪ノ如ク單ニ

人ヲ脅迫シタルノミニ止マラサルヲ以テ科刑ノ重キコト當然ナルヘキノミ

第二項 本項ハ被脅迫者ノ親族ノ生命、身體、自由又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタル場合ノ規定ニシテ前條第二項ノ規定ニ相應スルモノナリ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)手段トシテ被脅迫者ノ親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シタルコト(二)因テ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フヘキ權利ヲ妨害シタルコト是ナリ

而シテ規定ノ趣旨ハ前項ニ同シキヲ以テ前項及ヒ第九十三條ノ說明ヲ參照スレハ自ラ明白ナルヘキカ故ニ贅セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者モ亦前項ノ罪ニ同シク三年以下ノ懲役ニ處ス

第三項 本項ハ脅迫罪ノ未遂ニ關スル規定ナリ
 本項ハ前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス可キコトヲ明言ス、蓋シ第二百二十二條ニ於ケル單純脅迫罪ノ未遂ハ之ヲ處罰スル必要ナシト雖モ本條第一、二項ノ場合ハ既ニ脅迫又ハ暴行ヲ加ヘタルモ猶未タ被脅迫者ヲシテ義務ナキコトヲ行ハシメス又ハ行フ可キ權利ヲ妨害スルニ至ラサル場合之アルヘキカ故ニ之ヲ處罰スルノ要アル所以ナリ

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

一、略取及ヒ誘拐ノ罪トハ人ヲ略取誘拐シ、賣買シ、海外ニ移送シ、又ハ被拐取者ヲ收受若クハ隱匿シ又ハ隱避セシメタル罪ニ關スル規定ナリ、故ニ本章ハ寧ロ之ヲ略取及ヒ誘拐ニ關スル罪トスルヲ適當ナリトス、抑モ人文未開ノ時代ニ於テハ人ヲ略取賣買スル風熾ナリシカ文化漸ク進ミ人權漸ク發達スルニ及ヒテハ國家ハ之ヲ反法行爲トシテ認容セサルニ至レリ是レ本章ノ立法理由タリ
 二、本章ハ舊刑法第三編第一章第十節ニ相當スル規定ナリ、舊刑法ニ於テハ幼者ヲ略取誘拐スル罪ト題シタリト雖モ本法ハ其被害者ヲ獨リ幼者ニノミ限ラサルヲ

以テ之ヲ修正シテ單ニ略取誘拐ノ罪トシタリ、而シテ其内容ニ至リテモ亦修正補足セラレタリ左ニ其主ナル點ヲ舉示スヘシ

- (イ) 舊刑法ニ於テハ本罪ノ客體ヲ幼者ニノミ限定シ猶之ヲ十二歳未滿ト否トニ區別シタリト雖モ本罪ハ獨リ幼者ノミナラス成年者ニ對シテモ亦犯サルヘキ場合アルヲ以テ本法ハ唯單純拐取罪(第二百二十四條)ニ付テノミ未成年者タルコトヲ要件トシ其他ニ關シテハ幼者ノ外更ニ成年者ニ對スル場合ヲ認メタリ
- (ロ) 舊刑法ニ於テハ略取誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付スルニ非サレハ犯罪ヲ構成セサルモノトナシタリト雖モ本法ハ單ニ略取若クハ誘拐ノ事實アルノミヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノトナシタリ
- (ハ) 舊刑法ニ於テハ拐取ノ目的如何ニ因リ其科刑ヲ異ニスルコトナカリシト雖モ本法ハ之ヲ區別シ營利、猥褻、結婚又ハ帝國外ニ移送スル目的ニ出テタル場合ハ特ニ重ク處罰スルコト、シタリ
- (ニ) 舊刑法ニ於テハ略取又ハ誘拐シタル幼者タル情ヲ知リテ之ヲ收受シタル者ハ其目的ノ如何ヲ問ハス之ヲ處罰シタリト雖モ被害者ノ利益ノ爲メニ之ヲ

收受シタル者ノ如キハ全ク處罰スルノ要ナキヲ以テ本法ハ營利又ハ猥褻ノ目的ニ出テタル收受ヲノミ處罰スルコト、シタリ

ホ) 舊刑法ニ於テハ拐取罪ヲ以テ凡テ親告罪ト爲シタリト雖モ固ト本罪ヲ親告罪ト爲シタルハ被拐取者ノ利益保護ノ爲メニセルモノナルカ故ニ犯人カ檢舉處罰セラル、モ爲メニ被拐取者カ何等不利益ヲ蒙ラサル場合ニ於テハ之ヲ親告罪トナスノ根本タル理由ヲ失フ故ニ本法ハ或ル特別ナル場合例セハ猥褻若クハ婚姻等ノ如キ目的ニ出テタル場合ニシテ被拐取者ノ名譽ニ關スルコトアルヘキ場合ノ外ハ凡テ之ヲ非親告罪ト爲シタリ

三、本章規定ノ内容ヲ大別スレハ(一)單純略取誘拐罪(第二百二十四條)(二)加重略取誘拐罪(第二百三十五條、第二百二十六條、第一項)(三)賣買移送罪(第二百二十六條第二項)及ヒ(四)收受藏匿罪(第二百二十七條)是ナリ、以下各本條ニ就キ略說スヘシ

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ所謂單純拐取罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百四十一條、第三百四十二條) 一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)各體ハ未成年者ナルコト(二)

之ヲ略取又ハ誘拐シタルコト是ナリ、分說スルコト左ノ如シ

第一要件 客體ハ未成年者ナルコト 未成年者トハ二十才未滿ノ者ヲ謂フ(民法第三條)舊刑法ニ於テハ猶之ヲ十二才未滿者ト否トニ區別シタリト雖モ由來包括的刑期ヲ定メタル本法ニ於テ此ノ如キ細別ヲ認ムル要ナキヲ以テ單ニ未成年者タルコトヲ以テ足レリトシタリ、未成年者ニ對スル以上ハ次條ニ列記セル目的ヲ除クノ外其如何ナル目的ニ出テタルヲ區別セス、而シテ本罪ヲ以テ未成年者ニ對スル保護者ノ監督ヲ侵害スル罪ナリトスル立法例ニアリテハ本罪ノ成立ニ未成年者タルコトノ外猶其未成年者ハ保護者ノ監督ノ下ニ在リタルコトヲ要スト雖モ本罪ヲ以テ未成年者自身ニ對スル危害保護ナリトスル立法例ニ於テハ單ニ未成年者タルノ一事ヲ以テ足り其保護者ノ監督ノ下ニ在リタルヤ否ヤヲ問ハス本罪ハ成立スルナリ本法ハ後主義ニ從ヒシモノト解ス故ニ既ニ父母ノ膝下ヲ離レテ流浪スル少年者ニ對シテモ本罪成立スヘキナリ

第二要件 略取又ハ誘拐シタルコト 茲ニ所謂略取トハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ人ヲ自己ノ權力支配内ニ致スヲ謂ヒ誘拐トハ詐欺又ハ誘惑ヲ以テ人ヲ自己ノ支配權内ニ致スヲ謂フ、即チ略取誘拐ハ共ニ他人ヲ自己ノ實力支配内ニ致スコ

トヲ意味スト雖モ次ノ點ニ於テ異ナル即チ(一)手段ヲ異ニス詳言スレハ略取ハ
 暴行又ハ脅迫ニ因ルニ反シ誘拐ハ詐欺又ハ誘惑ニ因ル(二)略取ハ其行爲ノ性質
 上直接ニ被略取者ノ身體ニ對シ施サレタルコトヲ要スルモ誘拐ハ被誘拐ニ對
 シ直接ニ其手段ヲ施サレタルト否トヲ問ハス例セハ乳母ノ保護ノ下ニ在ル幼
 者ヲ誘拐スルカ爲メニ其乳母ニ對シ欺罔ノ手段ヲ施シタル場合ノ如シ(三)略取
 罪ニアリテハ全然被略取者ノ承諾ナキニ反シ誘拐罪ニアリテハ被誘拐者カ誤
 テ承諾ヲ與ヘタルコトヲ要ス而シテ本罪ハ被拐取者ニ對スル事實上ノ支配ヲ
 得ルニ由リテ成立スト雖モ其支配ニシテ繼續スル以上ハ其犯罪ハ繼續スルモ
 ノトス即チ本罪ハ所謂性質上ノ繼續犯ノ一ニ屬ス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス舊刑法ニ比シ刑罰
 範圍頗ル擴大セラレタリ

第二百二十五條 營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年
 以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ拐取シタル場合ノ規定ニシテ所謂加
 重拐取罪ノ一ナリ舊刑法ハ其目的如何ヲ問ハサリシト雖モ本條列記ノ如キ不正

ノ目的ニ出テタル場合ハ特ニ之ヲ嚴罰スル必要アルヲ以テ本法ハ特ニ之ヲ補足
 シタルコト冒頭ニ述ヘタルカ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)人ヲ略取又ハ誘拐シタルコ
 ト(二)營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テシタルコト是ナリ左ニ分説スヘシ

第一要件 人ヲ略取又ハ誘拐シタルコト 略取誘拐ノ意義ニ關シテハ既ニ前
 條ニ就キ説明シタリ前條ハ被害者ヲ未成年者ニ限リタリシカ本罪ハ未成年者
 タルト成年者タルトヲ問ハス從テ未成年者ニ對スル場合ニテモ其目的本條列
 記ノモノニ該當スルトキハ本條ニ依リ重ク處罰セラルヘキナリ

第二要件 營利猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テシタルコト 本罪ハ營利猥褻又ハ
 婚姻ノ目的ニ出ツルコトヲ要スルカ故ニ此以外ノ目的ニ出テタル場合ハ他罪
 ヲ構成スルハ格別本條ヲ以テ律ス可キニアラス營利トハ財産上ノ利益ヲ得ル
 コトヲ謂ヒ猥褻トハ廣義ニ於ケル淫事ニ關スル行爲ヲ謂ヒ單純ナル男女間ノ
 姦淫ヲモ包含スルモノト解ス結婚トハ合意上事實的夫婦關係ヲ結フヲ以テ足
 リ必ラスシモ民法上正當ナル婚姻ヲ爲スノ意思アルコトヲ必要トセス然レト
 モ此場合ニ關シテハ相手方カ眞實承諾アリタルトキハ本條ノ罪ヲ構成セサル

モノトス、何トナレハ誘拐ト云フ以上ハ詭計若クハ威力等ヲ用ヒ相手方ノ眞實ノ承諾ヲ得スシテ自己ノ支配ノ下ニ置クニ至リシモノナルコトヲ意味スルヲ以テ縱令犯人ノ目的結婚ニアリトスルモ眞實相手方ノ承諾アリタル場合ニ於テハ之ヲ誘拐シタリト云ヒ難ク又之ヲ處罰スルノ必要ナケレハナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス、蓋シ本罪ハ不法ノ目的ニ出テタルモノニシテ前條ノ罪ニ比シ其情重キモノナルヲ以テ其科刑ノ重キコト當然ニシテ別ニ説明ヲ加フル要ナシ

第二百二十六條

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

上ノ有期懲役ニ處ス

帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被買者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ

本條モ亦所謂加重拐取罪ノ一ニシテ帝國外ニ移送セントスル目的ニ出テタル場合ニ關ス舊刑法第三百四十五條

第一項 本項ハ帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ拐取シタル罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)人ヲ略取シ又ハ誘拐シタル

コト(二)帝國外ニ移送スル目的ニ出テタルコト、是ナリ、而シテ右第一要件ハ既ニ前條ニ於テ説明シタル所ナレハ是ヲ略シ第二要件ニ付キ一言セントス

茲ニ所謂帝國外トハ我主權ノ及ハサル帝國領土外ナルコトヲ意味シ國際法上所謂完全ナル獨立國タルト否トヲ問ハサルモノトス、從テ我主權ノ範圍内ニ屬スル臺灣、樺太ノ如キ邊陲ノ地ニ移送スルモ本罪ヲ構成セスト雖モ保護國タル關係ニアル朝鮮若クハ租借地タル大連、旅順ノ如キ地ニ移送シタル場合ニ於テハ本罪ヲ構成スヘキモノトス、何トナレハ朝鮮、大連、旅順等ノ地ハ帝國ノ領土内ニ非ラサレハナリ、而シテ此目的ヲ以テ拐取シタル以上ハ本罪ハ既ニ成立シ爾後實際之ヲ海外ニ移送シタリヤ否ヤハ本罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス、蓋シ此種ノ犯罪ハ概ネ組合的組織ヲ以テ互ニ氣脈ヲ通シ大仕掛ニ且ツ慣行的ニ行ハレ惡狀惡ムヘキモノナルカ故ニ短期モ二年ヲ降ラス

第二項 本項ハ海外移送ノ目的ヲ以テスル人身賣買又ハ海外移送ヲ處罰スル規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ハ前段ト後段トニヨリ其罪素ヲ異ニス便宜之ヲ分説スヘシ

甲前段ノ罪 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)帝國外ニ移送スル目的ヲ以テシタルコト、(二)人ヲ賣買シタルコト、是ナリ、而シテ右第一要件ハ既ニ説明シタル所ナレハ第二要件ニ付略説セン

人ヲ賣買シトハ獨リ金錢ヲ以テシタル場合ノミニ限ラス有償名義ヲ以テスル一切ノ交付ヲ意味シ自ラ拐取シタルト他人カ拐取シタルモノナルトヲ問ハサルノミナラス法ハ人身ノ賣買ヲ罪トスル精神ナルカ故ニ父母カ子女ヲ賣買スルモ猶本罪ヲ以テ論スヘク又被賣者及ヒ關係人ノ承諾アル場合ト雖モ犯罪ノ成立ヲ阻却スルコトナシ

乙後段ノ罪 本罪ノ成立要件モ亦二ナリ、即チ(一)客體ハ被拐取者若クハ被賣者タルコト(二)之ヲ帝國外ニ移送シタルコト是ナリ

第一要件 客體ハ被拐取者若クハ被賣者タルコト 本罪客體ハ被拐取者若クハ被賣者タルコトヲ要ス即チ被拐取者トハ他人ニ因リテ略取又ハ誘拐セラレタル者ヲ云ヒ被賣者トハ有償名義ヲ以テ交付セラレタル一切ノモノヲ指シ既ニ賣買セラレタル者ノ外移送ノ上賣買セラル、者ヲモ包含スルモノトス

第二要件 之ヲ帝國外ニ移送シタルコト 本罪ハ被拐取者又ハ被賣者ヲ帝國

外ニ移送シタルコトニヨリテ成立シ其目的ノ營利ニ出テタルト否トハ本罪ノ

成立ニ影響ナシ其他詳細ニ關シテハ前項ノ説明ヲ參照スヘシ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ニ同シク二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス營利又ハ販賣ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル罪ニ關スル規定ニシテ其目的ノ如何ニヨリ二項ニ區別ス(舊刑法第三百四十三條)

第一項 本項ハ第二百二十四條乃至第二百二十六條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ニ出テタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス、即(一)客體ハ被拐取者又ハ被賣者ナルコト(二)之ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタルコト(三)第二百二十四條乃至第二百二十六條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テシタルコト是ナリ

第一要件 本罪ノ客體ハ被拐取者又ハ被賣者タルコト 即チ犯人自ラ之ヲ拐取シ又ハ買収シタルニ非ラスシテ他人ニ因リテ略取若クハ誘拐セラレ又ハ買

收セラレタルモノナルコトヲ要ス猶詳細ニ付テハ前述セル所ヲ参照自得セラ
ルヘシ

第二要件 收受者クハ、藏匿シ又ハ、隠避セシメタルコト 茲ニ所謂收受トハ他
人ヨリ交付ヲ受ケテ之ヲ自己ノ實力の支配ノ下ニ置ク義ニシテ有償タルト無
償タルトヲ問ハス又之ヲ收受スルニ至リタル理由ノ如何ヲ論セサルカ故ニ之
ヲ家屬僕婢トナシ又ハ其他ノ名稱ヲ以テスル等本罪ノ成立ニ影響ナシト雖營
利又ハ猥褻ノ目的ニ出テタル場合ハ特ニ次項ニ規定シアルカ故ニ本項ノ罪ハ
營利猥褻ヲ目的トシタル場合ハ自ラ除外スヘキコト勿論ナリ藏匿トハ他人ノ
發見ヲ妨ク可キ場所ニ置クヲ指稱シ、隠避トハ藏匿以外ノ方法ヲ以テ他人ノ發
見ヲ妨クヘキ一切ノ行爲ヲ謂フ猶是等ノ説明ニ關シテハ第三百三條犯人藏匿罪
ノ説明ヲ参照セラルヘシ

第三要件 第二百二十四條乃至第二百二十六條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル
目的ヲ以テシタルコト 即チ第二百二十四條乃至第二百二十六條ニ規定シタ
ル拐取罪、賣買若クハ海外移送ノ罪ヲ犯シタル者ナルコトヲ知リテ而カモ之ヲ
幫助スル目的ニ出テタル場合ニ非ラサレハ本罪ヲ構成セス、幫助トハ要スルニ

犯罪行爲ヲ助成スル義ニシテ本條ハ總則幫助犯ニ對スル例外ナリトス、尙此點

ニ付テハ總則從犯ニ關スル規定第三十二條第一項ノ説明ヲ參酌セラルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス、處分ニ付テハ別ニ
説明ヲ加フヘキ餘地ナシ

第二項 本項ハ營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者若クハ被賣者ヲ收受シタル
場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス即チ一、客體ハ被拐取者若クハ被賣
者ナルコト、二、收受シタルコト、三、營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テシタルコト、是ナリ而
シテ是等要件ハ既ニ前述シタル所ヲ參照スレハ自カラ解シ得ラルヘキニ付茲ニ
再說セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス、蓋シ本罪ハ前項ノ
罪ニ比シ其目的醜惡ナルヲ以テ科刑稍重キナリ

第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章ノ罪ノ未遂ハ之ヲ罰スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ總則第四十
四條ノ結果特ニ之ヲ明示シタルノミ

第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限り告訴ヲ待テ之ヲ論ス但シ被拐取者又ハ被害者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

本條ハ本章規定ノ罪ノ中親告罪タル可キモノニ關シ規定シタリ(舊刑法第三百四十四條)

既ニ本章冒頭ニ於テ述ヘタルカ如ク或ル犯罪ヲ親告罪トシタル所以ハ之ヲ處罰スルコト却テ被害者ノ利益ヲ害スルニ至ルコトアルヘキヲ顧慮シタルニ在ルカ故ニ之ヲ處罰スルモ何等被害者ノ利益ヲ毀損セサル場合ニ於テハ之ヲ親告罪トスヘキ理由ノ根據ヲ失フナリ、本法ハ如上ノ理由ニ基ツキ本章規定中ニ於テ之ヲ親告罪トナスヘキモノト然ラサルモノトヲ區別シ本條ニ於テ之ヲ規定シタリ、即チ非親告罪タルヘキ罪ハ(一)國外移送ノ目的ヲ以テスル拐取罪及ヒ賣買若クハ移送罪(第二百二十六條)(二)同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル收受、隱匿又ハ隱避罪(第二百二十七條第一項)(三)是等二罪ノ未遂罪、及ヒ(四)營利ノ目的ニ出テタル拐取、收受罪(第二百二十五條)第二百二十七條第二項ノ四者ニ限り其他ノ場合ハ凡テ告訴ヲ待ツニ非サレハ論スルコトヲ得サルモノトシタリ、但シ被拐取者又ハ被賣

者ト犯人トノ間ニ於テ婚姻(民法上ノ正當婚姻)成立シタル場合ニ於テハ茲ニ一旦平和ハ成立シタルモノト認メ得ヘキカ故ニ其場合ニ於テハ婚姻カ全然無効ナルコト若クハ取消スヘキモノナルコトノ裁判確定シタル後ニ非サレハ告訴スルモ其效ナキモノトシタリ(民法第七百七十八條乃至第七百八十七條參照)

然レトモ本條ハ告訴權利者ニ關シ何等明示スル所ナキヲ以テ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ被害者及ヒ其代理人之ヲ行使スルモノト解ス

第三十四章 名譽ニ對スル罪

一人ノ社會ニ在ルヤ有形無形ノ二方面ニ於テ生ク、生理的體軀ヲ維持スルハ有形的生活ナリ、社會的地位ヲ維持スルハ無形的生活ナリ、所謂名譽トハ即チ此社會的地位ヲ云フニ外ナラス、故ニ法律ハ身體、生命、自由、財產ト共ニ亦名譽ヲ保護ス是レ本章ノ立法理由タリ

二、本章ハ舊刑法第三編第一章第十二節誹謗及ヒ誹毀ノ罪ト題スル規定中第三百五十八條乃至第三百六十一條ニ相當スル規定ニシテ左ノ點ニ於テ修正セラレタリ

(イ) 舊刑法ニ於テハ誹毀ノ手段ヲ限定シ且ツ公然ノ演説ヲ以テシタル場合ト書類圖畫ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ爲シタル場合トヲ區別シ其刑ヲ異ニシタリト雖モ本法ハ此ノ如キ細別ヲ設ケス一ニ裁判所ノ自由認定ニ委シタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ特ニ官吏ニ對スル侮辱罪ヲ認メタリト雖モ本法ハ一般ニ對スル侮辱罪ノミヲ認メ官吏侮辱罪ハ之ヲ削除シタリ

三、本章規定スル所僅ニ三條其内容ヲ分チテ(一)誹謗罪第二百三十條及ヒ(二)侮辱罪(第二百三十一條)トナシ得ヘク左ニ各本條ニ就キ略説スヘシ

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セス

本條ハ誹謗罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百五十八條、第三百五十九條)

第一項 本項ハ生者ニ對スル名譽毀損罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス、即チ(一)一定ノ人ニ對シタルコト(二)

公然事實ヲ摘示シタルコト(三)因テ其名譽ヲ毀損シタルコト是ナリ

第一要件 一定ノ人ニ對スルコト 誹毀罪ハ一定ノ人ニ對スルニ非サレハ罪トナラス故ニ汎ク日本人ハ公德心乏シト云フカ如ク、警察官ハ無能ナリト云フカ如キハ一定ノ人ニ對シタルモノト云フコトヲ得サルヲ以テ誹毀罪ヲ構成セス、然レトモ一定ノ人ナルコトヲ認メ得ル以上ハ其實名、藝名若クハ雅號ヲ指示シタルト單ニ容貌其他ヲ以テ之ヲ暗示シタルトヲ區別スルコトナシ而シテ茲ニ所謂人ト云フ中ニハ自然人ト法人トヲ含ムトスルヲ通論トス

第二要件 公然事實ヲ摘示シタルコト 茲ニ所謂事實トハ名譽ヲ毀損スルニ足ルヘキ事實ニシテ舊刑法ニ所謂惡事醜行ト意味同シ、摘示ノ方法ニ關シ本法ハ何等ノ制限ヲ認メサルヲ以テ演説ニヨルト文章、圖畫ヲ公布スルト、又雜劇偶像ヲ作爲シテ爲ストヲ問ハスト、雖モ事實ノ摘示ハ公然タルコトヲ要ス、從テ公然タラサル以上ハ縱令他人ノ名譽ヲ毀損スヘキ惡事醜行ヲ摘示スルモ本罪トナラス例セハ二人對坐ノ間ニ於テ相手方ノ惡事醜行ヲ舉ケテ之ヲ面詰スルモ本罪トナラサルカ如シ、蓋シ公然ナラサレハ之カ爲メニ相手方ノ名譽即チ社會上ノ對人的ノ地位ハ毫モ毀損セラレタリト云フヲ得サレハナリ

第三要件 名譽ヲ毀損シタルコト 吾人ハ社會ニ於ケル一員トシテ其身分、職業、資産等ノ關係ニ於テ之ニ相當スル地位ヲ有ス名譽トハ即チ此社會上ノ地位ニ對スル價值ニシテ名譽毀損トハ其社會上ノ地位ニ對スル價值ヲ侵害スルヲ云フニ外ナラス、學者或ハ本罪ヲ以テ人ノ名譽心ヲ毀損スルニ因リテ成立スルモノナリト説クト雖モ多數説ハ單ニ名譽即チ社會上ノ地位ニ對スル價值其自體ヲ侵害スルニ因リテ成立ストナス、從テ其結果トシテ理論上ハ被誹毀者カ毫モ之ヲ聞知セサル間ニ於テモ亦本罪ハ既ニ既遂タルヲ得ヘク又被誹毀者ニ於テ之カ爲メニ敢テ不名譽ナリトノ感ヲ懷カサルモ猶罪トナルナリ、然レトモ本罪ハ告訴ヲ要スルモノトナスカ故ニ實際上ニ於テハ被誹毀者カ名譽ヲ毀損セラレタリト思惟スルニ非サレハ問題ヲ惹起セサルナリ

上述セルカ如ク名譽毀損罪ハ人ノ社會的地位ニ對スル價值ヲ侵害スル所爲ナリトセハ苟クモ社會的地位ヲ有スル者ハ其地位ノ高下ニ論ナク舉ケテ本罪ノ被害者タリ得ヘク從テ夫ノ幼者ノ如キ精神病者ノ如キニ對シテモ亦本罪ハ成立シ得ヘキモノトス然レトモ所謂名譽ハ各人ノ社會的地位如何ニ因リテ定マルヘキカ故ニ同一事實ノ摘示ハ常ニ必ラスシモ各人ニ對シテ一様ニ誹毀ナリ

ト斷スルヲ得ス甲ニ對シテハ誹毀タルヘキモ乙ニ對シテハ誹毀トナリ得サルコトアルヘキナリ

終リニ臨ミ一言スヘキコトハ本罪ト新聞法及ヒ出版法トノ關係ナリ、新聞法及ヒ出版法ニヨレハ記載事項カ私行ニ涉ルモノヲ除ク外裁判所ニ於テ其人ヲ害スルノ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲メニセルモノト認メタル場合ニ於テハ被告人ニ事實ノ證明ヲ許スコトヲ得若シ此證明ヲ得サルトキハ誹毀ノ罪ヲ免スルコト、シタリ、故ニ此場合ニ於テ若シ立證ヲ得タルトキハ誹毀罪ハ不成立ニ終ハルヘシ何トナレハ罪ノ免除ニシテ刑ノ免除ニ非サレハナリ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス、蓋シ本罪ハ犯情ニ差等アルヘキヲ以テ法律ハ三種ノ選擇刑ヲ定メ裁判所ヲシテ適宜處分セシメントスルナリ

第二項 本項ハ死者ニ對スル名譽毀損罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス即チ(一)一定ハ死者ニ對スルコト(二)其名譽ヲ毀損シタルコト(三)誣罔ニ出テタルコト、是ナリ、而シテ右第一、第二要件ハ

既ニ前項ニ關シ述ヘタル所ヲ參酌シテ了解シ得ヘキヲ以テ之ヲ略シ第三要件ニ關シ少シク述フル所アルヘシ
 現ニ生存スル人ニ對シテハ其摘示シタル事實ノ有無ヲ問ハス之ヲ處罰スルモノトナシタリト雖モ死者ニ對シテハ事實誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セサルモノトシタリ抑々死者ハ既ニ社會上ノ地位ヲ有セス從テ名譽ノ主體ニ非スト雖モ事實ヲ誣ヒ死者ヲ誹謗スルカ如キハ爲メニ生存セル死者ノ親族ハ不名譽ノ地位ニ立タサルヲ得ス是レ本法カ特ニ誣罔ニ出テタル場合ノミヲ處罰シタル所以ナリ
 二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ罪ニ同シク一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本條ハ一般侮辱罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第四百二十六條第十二號)

一成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ三トナス即チ(一)一定人ニ對スルコト(二)侮辱シタルコト(三)公然タルコト是ナリ分説スルコト左ノ如シ

第一要件 一、定人ニ對スルコト 本罪モ亦前條ノ誹毀罪ニ同シク一定ノ人ニ對スルニ非ラサレハ罪トナラス故ニ一般的ニ支那人ハ愚鈍ナリト云フカ如キハ本罪ヲ構成セス
 第二要件 侮辱シタルコト 一般ニ人ヲ侮辱スルト云フハ人ノ品格尊嚴ヲ毀損スヘキ不敬ノ行爲ヲ指稱ス故ニ此意味ニ於テハ前條ノ誹毀罪ノ如キモ亦一種ノ侮辱罪ナリト論スルコトヲ得ヘシト雖モ法律ハ事實ヲ摘示シタル場合ヲ以テ特ニ誹毀罪トシテ前條ニ規定シアルカ故ニ茲ニ判謂侮辱罪ト云フハ事實ヲ摘示スル以外ノ方法ヲ以テシタル不敬行爲ナリト解スヘキナリ舊刑法ニ於テハ公然人ヲ罵詈嘲弄シタルモノ云々ト規定シタリト雖モ本法ハ其方法ニ關シ何等ノ制限ヲ加ヘサルヲ以テ馬鹿ト呼ヒ痴呆ト罵ルカ如キ(言語ニ因ルモノ)故ラニ人ノ面前ニ於テ臀部ヲ顯ハシ若シクハ放屁スルカ如キ(形容ニ因ルモノ)其他文書若クハ圖畫ニ因リタルト否トヲ區別セスト雖モ單ニ敬意ヲ表セザリシカ如キ消極的行爲不作爲ハ未タ以テ本罪ヲ構成スルモノト論スルヲ得サルモノトス

第三要件 公然タリシコト 公然タルコトヲ要スルハ本罪ノ本質上當ニ然ル

ヘキ所ニシテ所謂公然トハ不特定人又ハ多數人ノ現在スルコトヲ要スルカ故ニ公然タラサリシ場合例セハ二三ノ朋友間ニ於テ他人ヲ罵詈スルモ本罪トナラス猶此點ニ關シテハ第七十五條ノ說明ヲ參照セラレヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス、舊刑法ニ於テハ本罪ハ之ヲ違警罪中ニ規定シアリタル程ニテ極メテ輕微ノ犯罪ニ屬スルヲ以テ科刑輕キコト別ニ說明ヲ要セサルヘキノミ

第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

本條ハ本章ノ罪ノ親告罪タルヘキコトヲ規定シタルモノナリ(舊刑法第三百六十一條)

誹毀罪及ヒ侮辱罪ヲ共ニ親告罪ト爲シタル理由ハ他ナシ、即チ一方ニ於テハ強ヒテ之ヲ罰スヘキモノトスレハ事實ヲ曝露スル結果却テ被害者ノ名譽ヲ毀損スルコト大ナルニ至ルヘキト他方ニ於テハ誹毀及ヒ侮辱ハ諸般ノ事情ニヨリ同一程度ノ行爲モ各人ニ因リ其被害ノ程度著シク異ナルヘキヲ以テ之ヲ訴追シテ處罰ヲ加フ可キヤ否ヤハ一ニ被害者ノ自由ニ委シタルモノナリ

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

一、國力充實ハ國家振興ノ大本タリ、殖産興業ノ發達ハ國力充實ノ根源タリ、故ニ國家ハ一方ニ於テ吾人ノ生命、身體、自由等ノ保護ヲ計ルト同時ニ他方ニ於テ經濟取引ノ安固ヲ確保セサル可ラス、是レ即チ本法カ本章規定ヲ設ケテ取引上ノ信用ヲ毀損シ若クハ業務ヲ妨害シタル者ヲ罰スル所以ナリ

二、本章ハ舊刑法第二篇第八章商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪ト題スル規定ニ相當スト雖モ左ノ諸點ニ於テ修正セラレ

(イ) 舊刑法ニ於テハ業務妨害ノ罪ニ關シ其第二百六十七條以下數條ニ於テ細別的规定ヲ設ケタリシト雖モ本法ハ唯包括的规定ヲ設ケテ刑罰範圍ヲ擴大シ以テ裁判所ヲシテ適宜處分セシムルコトトナシタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ信用毀損ノ罪ニ關シ何等規定スル所ナカリシト雖モ信用ハ實ニ經濟取引界ニ於ケル最大資本トモ稱スヘキ現下ノ狀況ニアリテハ之カ保護ノ忽ニス可ラサルコト多言ヲ要セス故ニ本法ハ之ニ關スル規定ヲ補足シ以テ時勢ノ要求ニ適應セシメタリ

三、本章收ムル所僅ニ二條舊刑法ニ比シ著シク大ニ簡ナルヲ得タリ左ニ各本條ニ付キ逐次略述スヘシ

第二百三十三條 虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ四千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ偽計ヲ以テ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ業務ヲ妨害シタル罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第二百六十七條乃至第二百七十二條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタルコト(二)手段トシテ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタルコト是ナリ、分説スルコト左ノ如シ

第一要件 人ハ信用ヲ毀損シ若クハ業務ヲ妨害シタルコト 茲ニ所謂人トハ自然人及ヒ法人ヲ含ム、信用ハ毀損トハ經濟上ニ於ケル個人ノ價值ヲ侵害スルヲ謂ヒ、業務ノ妨害トハ廣ク營業ニ支障ヲ與フル義ニシテ農工商何レタルヤヲ區別セス又法文ハ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ業務ヲ妨害シ云々ト規定シ信用若クハ業務ノ主體タル人ニ付キ制限スル所ナキヲ以テ其妨害カ一人ニノミ及ヒタル場合ト雖犯罪ノ成立ヲ妨ケサルコト勿論ナリ而シテ本罪ハ其未遂ヲ罰セ

スト雖虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタル事實アルトキハ其當然ノ結果トシテ多少信用毀損又ハ業務妨害トナルヘキカ故ニ實際上ニ於テハ差支ナカルヘキナリ

第二要件 手段トシテ虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒタルコト 法文ハ手段ヲ限定スルカ故ニ此以外ノ手段ニ因リタル場合ハ他罪トナルハ格別本罪ヲ構成セス所謂虚偽ノ風説ヲ流布スルトハ會テ存在セサル事實ヲ虚構シテ之ヲ公衆ニ吹聴傳播スルノ謂ニシテ人ヲシテ之ヲ傳唱セシメタル事實アルヲ要セス例セハ商人何某ハ破産ニ瀕シ財産ノ差押ヲ受ケタリ又ハ何某ノ製造ニ係ル某品ハ品質劣等ナリト詐ハリ吹聴セルカ如シ從テ眞實ナル事實ニ係ルトキハ本罪ヲ構成セス、但シ場合ニヨリテハ誹毀罪ヲ構成スルコトアルヘシ、偽計ヲ用ユルトハ人心ヲ眩惑セシムヘキ詐欺ノ計策ヲ意味ス例セハ主家ノ事業ヲ廢セシムヘク雇人ニ啗スニ利ヲ以テシテ之ヲ誘引スルカ如シ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

本條ハ威力ヲ以テ人ノ業務ヲ妨害シタル場合ノ規定ナリ(舊刑法第二百六十七條)

乃至第二百七十二條

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)人ノ業務ヲ妨害シタルコト、(二)手段トシテ威力ヲ用ヒタルコト、是ナリ、而シテ右第一要件ハ既ニ前條ノ下ニ於テ説明シタル所ナルヲ以テ之ヲ略シ第二要件ニ付テ略説スヘシ

前條ノ業務妨害罪ニ其手段トシテ虚偽ノ風説ヲ流布シ若クハ偽計ヲ用ヒタルコトヲ要スルニ反シ本條規定ノ妨害罪ハ其手段トシテ威力ヲ用ヒタルコトヲ要ス、所謂威力ヲ用フルトハ人ノ意思ヲ制壓スル勢力ヲ汎稱シ犯人カ相手方ニ加ヘタル暴行脅迫ハ勿論權威ヲ利用スルカ如キ場合ヲモ含ム、例セハ暴力ヲ以テ職工ヲ途ニ捉ヘ之ヲシテ業務ニ就カサラシムルカ如キ、橋梁等ヲ破壊シテ通行ヲ杜絶シ以テ彼岸ノ耕地、工場若クハ得意先ニ行クコト能ハサラシムルカ如キ、若クハ主從關係又ハ債權者タル地位ヲ利用シテ強ヒテ自己ト同一業務ニ從事スルコトヲ得サラシムルカ如キ等枚舉ニ遑ナシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前條ノ例ニ同シク三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

一、本章乃至第四十章ノ規定ハ吾人ノ財産保護ニ關スル規定ナリ、抑々財ニ富マントスルハ人類ニ免ル可ラサル欲望ニシテ又之アルカ故ニ殖産興業ノ途開クニ至ルト雖モ爲メニ他人ノ財ヲ横領スルカ如キハ許ス可ラサル不法行爲ナルヲ以テ法律ハ之ニ關スル罰則ヲ設ケ以テ之ヲ禁止シタリ、是レ即チ本章乃至第四十章ノ規定アル所以ナリ

二、舊刑法ハ本章ノ罪ヲ細別シテ竊盜及強盜ト爲シ各之ニ關スル節目ヲ設クト雖モ此二種ノ罪ハ元來其性質ヲ同クスルヲ以テ之ヲ一章ノ下ニ集ムルヲ便宜ナリトス、故ニ本法ハ此區別ヲ廢止シ本章ニ於テ舊刑法第三編第二章第一節竊盜ノ罪及ヒ第二節強盜ノ罪ヲ併セ修補シタルモノニシテ其主ナル點ハ左ノ如シ

(イ) 舊刑法ニ於テハ竊盜罪ニ關シ普通竊盜、變災盜、鎖鑰盜、共同盜、持兇器盜、田野盜、屋外盜、明治二十三年法律第九十九號等ノ細別ヲ設ケ各別ニ短期刑ヲ定メアリシト雖モ本法ニ於テハ是等細別的規定ヲ廢シ唯一包括的ノ規定ヲ設ケタルニ止マリ裁判所ヲシテ擴大セラレタル刑罰範圍内ニ就キ各犯情ニ應シ適

宜處斷セシムルコト、シタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ強盜罪ニ關シテモ同様細別的規定ヲ設ケタリシト雖モ此ノ如キ定規的規定ハ却テ之ナキヲ便トスルコト實際明白ナルヲ以テ本法ハ之ヲ削リ亦裁判所ノ自由認定ニ委シタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ暴行脅迫ヲ以テ他人ノ財産ヲ奪取シタル積極の場合ニ關シテハ規定スル所アリシト雖モ暴行脅迫ニ因テ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル消極的ノ場合ニ關シ何等規定スル所ナカリキ是レ法ノ不備タルコト勿論ナルヲ以テ本法ハ特ニ此場合ニ關シテ補足シタリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ強盜罪ノ豫備ハ之ヲ罰セサルモノトナシタレトモ本法ハ其危害ニ鑑ミ特ニ之ヲ處罰スヘキモノトナシタリ

三、本章收ムル所實ニ十一條、其内容ヲ大別スレハ(一)竊盜罪第二百三十五條(二)強盜罪第二百三十六條(三)準強盜罪第二百三十八條第二百三十九條(四)強盜豫備罪第二百三十七條(五)加重強盜罪第二百四十條第二百四十一條(六)親族相盜第二百四十四條是ナリ以下各本條ニ就キ略述セン

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ竊盜罪ニ關スル規定ニシテ刑法典中最モ多ク適用ヲ見ルヘキモノ、一ナリ舊刑法第三百六十六條乃至第三百七十四條、明治二十三年法律第九十九號

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ他人ノ財物ナルコト(二)竊取シタルコト是ナリ、分説スルコト左ノ如シ

第一要件 目的物ハ他人ノ財物ナルコト 所謂他人ハ、財物トハ他人ノ所持ニ屬スル財産的價值ヲ有スル有體物ヲ謂フモノト解ス、左ニ分析説明セシ

(イ)他人ハ所持ニ屬スルコトヲ要ス、他人トハ自己以外ノ一切ノ者ヲ指稱ス、他人ノ所持ニ屬スルモノタルコトヲ要スルカ故ニ犯人自身ノ所持ニ屬シタルモノ又ハ何人ノ所持ニモ屬セサル所謂無主物(例セハ海洋ニ於ケル魚介、遺棄物、遺失物)ニ關シテハ本罪成立セス、但シ自己ノ財物ナリト雖モ既ニ他人ノ占有ニ歸シ若クハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ竊盜罪ノ目的物タルヘキコト特ニ第二百四十二條ノ認ムル所ナリ、從テ茲ニ所謂所持ト所有權問題トハ全ク混同スヘカラサルコトヲ注意スヘシ

(ロ) 財産的價値アルコトヲ要ス、竊盜罪ノ目的物タル財物ハ財産的價値アルコトヲ要スルヤ否ヤニ關シテハ學說岐ルト雖モ我大審院ハ多數學者ト共ニ積極說ヲ採ル而シテ財産ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキ物ナルコトヲ必要トセス、從テ竊盜罪ノ目的物タルヘキ財産ハ金錢的價値ヲ有スルヤ否ヤヲ問フノ要ナク唯財産權ノ目的物トナリ得ヘキ價値アルヲ以テ足ル、從テ一糸ノ毛髮、一葉ノ紙片ナリト雖モ苟クモ財産權ノ目的物トナリ得ル以上ハ之ニ對シテ竊盜罪ハ成立スルコト勿論ナリ

(ハ) 有體物ナルコトヲ要ス、所謂有體物トハ無形物即チ權利ノ對語ナリ、元來竊盜罪ハ他人ノ所持ヲ侵スヲ以テ其本質トナス故ニ他人カ有形的ニ所持スルコト能ハス從テ犯人カ其所持ヲ侵シテ自己ノ所持ニ移スコト能ハサル無形物ニ對シテハ竊盜罪ナル觀念ヲ容ルヘキ餘地ナシ、然レトモ所謂有體物ナル觀念ハ民法上ノ動産、不動産ノ區別ニ關係ナシ、猶本問ニ關シテハ左ノ數點ニ注意セラルヘシ

(1) 無形物タル權利自體ハ本罪ノ目的物タルコトヲ得サルコト勿論ナリト雖モ權利ノ徵證タル證書自體ハ有體物トシテ本罪ノ目的物タルコトヲ得ヘシ

(2) 人ノ身體ハ法律上所謂物ニ非ス從テ之ニ關シ竊盜罪成立セスト雖モ身體ヲ毀損セスシテ之ト分離シ得ヘキ加工物(例セハ義手足、義齒、義眼等ノ類)ハ所謂財物トシテ本罪ノ目的物タルコトヲ得ヘシ

(3) 遺骸ニ關シ曾テ大審院ハ墳墓ト共ニ相續人ノ保有ニ屬シ價格ヲ判定シ得ヘキヲ以テ之ニ對シ竊盜罪成立スト判示セシカ本法ニ於テハ死屍、遺骨、遺髮其他棺内藏置物ノ領得ニ關シ特ニ第九十條及ヒ第九十一條ニ規定スル所アルヲ以テ是等規定ハ本罪ニ對シ例外ヲナスモノト解ス、但シ解剖、陳列其他ノ目的ノ爲メニ既ニ他人ノ所持ニ入りタルモノニ付テハ竊盜罪成立スヘキコト勿論ナリトス

(4) 液體及ヒ瓦斯ノ有體物タルコト論ナシト雖モ電氣ニ關シテハ曾テ實際問題起リ學者間ニ異論アリシヲ以テ法ハ特ニ明文ヲ設ケテ之ヲ解釋シタリ

(5) 不動産タル建物其自體ニ關シテハ竊盜罪成立セサルコト勿論ナリト雖モ其一部分ヲ構成スル戸、障子等ニ付テハ之ヲ建物ト分離シ得ヘキトキニ限リ本罪ノ目的物タルヲ得ヘシ

第二要件 之ヲ竊取シタルコト 所謂竊盜トハ物ニ對スル他人ノ所持ヲ離シ

自己ノ所持ニ移スヲ謂フ、勿論不法ナルコトヲ要スルカ故ニ他人カ承諾ヲ與ヘタル場合若クハ他人カ承諾ヲ與フヘキコトヲ豫期シタル場合例セハ親友間ニ於テ一時使用スルカ爲メニ無斷書籍ヲ持去リタルカ如シ又ハ正當ノ權限ニ基キ他人ノ所持ヲ離ス場合例セハ執達吏カ差押ノ爲メニ他人ノ財物ヲ自己ノ占有ニ移スカ如シハ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリト雖モ本法ハ夫ノ獨逸刑法ニ於ケルカ如ク不法ニ領得スル目的アルコトヲ要セサルカ故ニ苟クモ不法ニ他人ノ所持ヲ侵害シテ自己ノ所持内ニ移シタル以上ハ自己ニ之ヲ領得スルノ意思アリシヤ否ヤヲ問ハス(竊盜ノ大多數ハ此目的ニ出ツヘシト雖モ)從テ他人ノ所持物ヲ破壊セントスル目的ヲ以テ之ヲ取出シタル後ニ於テ之ヲ破壊シタリトスルモ是レ事後ノ處分ニ屬シ本罪ノ成立ヲ妨ケサルモノトス竊取ト云フハ他人ノ所持ヲ離シ自己ノ所持内ニ移シタルコトヲ要スルカ故ニ他人ノ所持ヲ離ス事實ト犯人ノ所持ニ移ス事實ト明白ニ區別シ得ラル、場合ニ於テハ單ニ他人ノ所持ヲ離シタル事實ノミニテハ本罪成立セス例セハ他人所有ニ係ル生洲ノ口ヲ開キタルノミニテ未タ在中セル魚介ヲ捕獲セサル場合ノ如シ而シテ自己ノ所持ニ移スト云フハ即チ自己ノ實力の支配ノ下ニ移シ置クコトヲ意

物
持
移
手
觸
レ
タ
ル
ノ
ミ
ニ
テ
ハ
足
レ
リ
ト
セ
ス
然
レ
ト
モ
犯
人
カ
犯
所
ヨ
リ
遠
ク
持
去
ル
コ
ト
若
シ
ク
ハ
全
ク
安
全
ナ
ル
場
所
ニ
移
シ
タ
ル
コ
ト
ヲ
要
セ
サ
ル
カ
故
ニ
例
セ
ハ
竊
盜
他
人
ノ
家
ニ
忍
ヒ
入
リ
既
ニ
財
物
ヲ
得
テ
之
ヲ
自
己
ノ
懷
中
ニ
入
レ
タ
ル
場
合
即
チ
所
持
ヲ
自
己
ニ
移
シ
得
タ
ル
場
合
ノ
如
キ
ハ
未
タ
其
犯
所
ヨ
リ
逃
走
シ
タ
ル
ヲ
俟
タ
ス
シ
テ
竊
盜
罪
ハ
既
遂
ト
ナ
ル
要
ス
ル
ニ
他
人
ノ
所
持
ヲ
離
シ
之
ヲ
自
己
ノ
所
持
ニ
移
シ
タ
ル
瞬
間
ヲ
以
テ
直
ニ
竊
盜
罪
ハ
成
立
ス
ル
モ
ノ
ト
ス
通
常
ノ
場
合
ニ
於
テ
ハ
所
持
者
ノ
不
知
ノ
間
ニ
行
ハ
ル
ヘ
シ
ト
雖
モ
必
ラ
ス
シ
モ
所
持
者
ノ
不
知
ノ
間
ニ
於
テ
行
ハ
レ
タ
ル
コ
ト
ヲ
要
セ
ス
但
シ
所
持
者
ノ
目
前
ニ
於
テ
行
ハ
レ
タ
ル
場
合
ニ
於
テ
ハ
騙
取
強
取
等
特
別
ノ
手
段
ニ
出
テ
サ
リ
シ
コ
ト
ヲ
要
ス
ル
ハ
勿
論
ナ
リ

味スルカ故ニ單ニ目的物ニ手ヲ觸レタルノミニテハ足レリトセス然レトモ犯人カ犯所ヨリ遠ク持去ルコト若シクハ全ク安全ナル場所ニ移シタルコトヲ要セサルカ故ニ例セハ竊盜他人ノ家ニ忍ヒ入り既ニ財物ヲ得テ之ヲ自己ノ懷中ニ入レタル場合即チ所持ヲ自己ニ移シ得タル場合ノ如キハ未タ其犯所ヨリ逃走シタルヲ俟タスシテ竊盜罪ハ既遂トナル要スルニ他人ノ所持ヲ離シ之ヲ自己ノ所持ニ移シタル瞬間ヲ以テ直ニ竊盜罪ハ成立スルモノトス通常ノ場合ニ於テハ所持者ノ不知ノ間ニ行ハルヘシト雖モ必ラスシモ所持者ノ不知ノ間ニ於テ行ハレタルコトヲ要セス但シ所持者ノ目前ニ於テ行ハレタル場合ニ於テハ騙取強取等特別ノ手段ニ出テサリシコトヲ要スルハ勿論ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ徵役ニ處ス舊刑法ニ於テハ持兇器竊盜罪ノ最重刑ト雖モ輕懲役ヲ超ヘス普通竊盜罪ニ至リテハ僅ニ重禁錮四年再犯加重ヲ爲スモ猶五年ヲ出ツルコトヲ得サリシ結果常習的ノ犯人ニ對シテハ殆ント懲戒ノ效ナカリキ故ニ本法ハ更ニ刑罰範圍ヲ擴大シ以テ裁判所ヲシテ犯情ニ適應シテ處斷セシムルコトヲナシタリ

第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ

刑法講義 第二編 罪 第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪 (二百三十六條) 六二九

五年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲジテ之ヲ得セシメタル者亦

本條ハ強盜罪ニ關スル規定ナリ舊刑法第三百七十八條第三百七十九條

第一項 本項ハ財物ヲ強取シタル場合即チ有形的強盜罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ他人ノ財物ナルコト(二)暴行又ハ脅迫ヲ以テ之ヲ強取シタルコト是ナリ

第一要件 目的物ハ他人ノ財物ナルコト 本要件ハ前條ノ竊盜罪ニ就キ説明シタル所ニ同シケレハ同條説明ヲ參照スヘシ

第二要件 暴行又ハ脅迫ヲ以テ之ヲ強取シタルコト 竊盜罪強盜罪ハ共ニ不法ニ他人ノ財物ニ對スル所持ヲ侵害スル所爲ナリト雖モ竊盜罪ハ竊取シタルコトヲ要スルニ反シ強盜罪ハ之ヲ強取(奪取)スルヲ以テ其本質トナス、即チ本罪ハ財物ノ所持者ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ其反抗ヲ抑壓シ因テ財物ノ所持ヲ自己ニ移轉スルニアリ、故ニ茲ニ所謂暴行又ハ脅迫ハ夫ノ脅迫罪ニ於ケル暴

行脅迫ニ比シ更ニ狹義ニシテ單ニ被害者ニ畏怖ノ念ヲ生セシメタルノミニテハ足ラス全ク之カ爲メニ被害者ハ身體若クハ意思ノ自由ヲ喪失シタル程度ニ達シタルコトヲ要ス、故ニ例セハ被害者ノ手足ヲ緊縛シテ有形的腕力ニ因リテ其反抗ヲ抑壓スルカ如ク(暴行)又ハ兇器ヲ差向ケテ無形的ニ之ヲ威壓スルカ如ク(脅迫)全然其自由ヲ抑壓シ以テ被害者ノ意思ニ反シテ財物ノ所持ヲ奪ヒタルコトヲ要ス、然レトモ暴行脅迫ハ必ラスシモ直接ニ財物ノ所持者ニ加フルコトヲ要セス、故ニ例セハ雇人ヲ縛シ主人ヨリ財物ヲ奪取シタルカ如ク間接ナル暴行脅迫モ亦強盜罪タルヘキコト勿論ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五年以上ノ有期懲役ニ處ス、惡ムヘキ罪質ナルカ故ニ最短ト雖モ五年ヲ降ラス長期ハ十五年ニ至ルヲ得

第二項 本項ハ暴行又ハ脅迫ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ得セシメタル場合、即チ所謂無形強盜罪ニ關スル規定ニシテ舊刑法ノ缺ヲ補ヒシ新規定ナリ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之レヲ得セシメタルコト(二)手段トシテ他人ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加

へタルコト是ナリ

第一要件 財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコト、通常強盜罪ト云へハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘテ財物ヲ奪取シタル所謂有形強盜ヲ意味ス、然レトモ實際ノ事例ニ鑑ムレハ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘ被害者ノ意思ニ反シテ自己ノ債務ヲ免レ若クハ債權ヲ獲得スルコト少カラス、而カモ之レ所謂有形の財物ノ強取ト云フヲ得サルカ故ニ前項規定ノ強盜罪ヲ以テ問擬スルコトヲ得スト、雖モ有形的ニ財物ノ移轉ヲナシタル場合ト無形的ニ債權ヲ得若クハ債務ノ免脱ヲ得タル場合トハ唯方法ヲ異ニスルノミニシテ財産上ノ侵害ナル點ニ於テ二者輕重ナシ、舊刑法ニ於テハ之ニ關スル規定ヲ缺如シタリシヲ以テ本法ハ特ニ本項規定ヲ設ケタリ、財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ得セシメタルハ必ラス不法ニ出テタルコトヲ要スルカ故ニ自己又ハ他人ニ主張スヘキ正當ノ權利アリテ之ニ基ツキタル要求ハ縱令其間ニ於テ所謂暴行又ハ脅迫ノ手段アリタル場合ニ於テモ本罪ヲ構成セサルモノナリト解ス

第二要件 其手段トシテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタルコト、本要件ハ前項ニ關シ述ヘタル所ニ同シケレハ再說セズ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ有形強盜罪ニ同シク五年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ強盜ノ豫備ヲ罰スヘキ規定ニシテ亦新刑法ノ一特色ナリ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トス、即チ(一)強盜ノ目的ヲ以テシタルコト

(二)其豫備ヲ爲シタルコト、是ナリ、而シテ本條ハ第二十一條殺人豫備罪第百十三條

(放火豫備罪第七十八條内亂豫備罪等ノ趣旨ニ同シケレハ同條及ヒ前條ノ説明ヲ

參照シテ之ヲ了解セラルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス、放火及ヒ殺人ノ豫備罪ニ關

シテハ情狀ニ因リ刑ノ免除ノ恩典アリト雖モ本罪ニアリテハ之ヲ缺ク、蓋シ本罪

ハ放火殺人ノ豫備罪ニ比シ情狀斟酌スヘキ餘地ナキヲ以テナリ

第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

本條ハ所謂準強盜罪ノ一場合ニシテ竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メニ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第

三百八十二條

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス、即チ(一)竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メナリシコト(二)暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト是ナリ、分説スルコト左ノ如シ

第一要件 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メナリシコト 即チ本罪ノ暴行脅迫ハ竊盜既ニ財物ヲ得タル後其取還ヲ拒ク爲メ又ハ逮捕セラレントスルニ方リ之ヲ免ル、爲メ若クハ自己ノ罪跡ヲ湮滅スル爲メニ爲サレタル場合ニ限ル、法文竊盜賊ヲ得テト云フ文字ハ單ニ其取還ヲ拒キト云フ文詞ニ係ルモノナルカ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル云々ノ文詞ニマテ及ンヘキカニ付テハ解釋上疑義アリト雖モ我大審院ハ本條所謂財ヲ得テト云フハ全體ニ及フヘキモノナリトシ從テ竊盜未タ財ヲ得サリシトキ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡湮滅ノ爲メ臨時暴行脅迫アリタル場合ハ強盜罪ノ未遂トシテ罰スヘキモノナリト判示セラレタリ舊刑法ハ逮捕ヲ免レ又ハ罪跡湮滅ニ關スル場合ニ付キ規定スル所ナカリシカ本法ハ之ヲ補足シタリ

第二要件 暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルコト 暴行脅迫ノ意義ニ付テハ第二百三

十六條ニ述ヘタルニ同シケレハ同條說明ヲ參照シテ了解セララルヘシ

二、處分 法文強盜ヲ以テ論スト明示ス、故ニ本罪ヲ犯シタル者ハ第二百三十六條第一項ノ強盜罪トシテ五年以上ノ有期懲役ニ處スヘキモノトス

第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

本條モ亦所謂準強盜罪ノ一ニシテ人ヲ昏醉セシメテ財物ヲ盜取シタル罪ノ規定ナリ(舊刑法第三百八十三條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)人ヲ昏醉セシメタルコト(二)因テ其財物ヲ盜取シタルコト是ナリ

第一要件 人ヲ昏醉セシメタルコト 茲ニ所謂人ヲ昏醉セシムルトハ人ノ精神ヲシテ無意識状態ニ陥ラシムルヲ謂ヒ、舊刑法ニ所謂醉迷ト云フニ異ナラズ、昏醉ニ至ラシメタル原因犯人ノ所爲ニ屬スル以上ハ藥酒催眠術其他ノ方法ヲ以テスルヲ論セス、即チ本罪ハ被害者カ意思ノ自由ヲ喪失セシメラレタル點ニ於テハ第二百三十六條ノ強盜罪ニ異ナル所ナシト雖モ彼レニアリテハ暴行脅迫ノ結果ニ因リ此ニアリテハ昏醉ニ因リタルノ差異アルノミ

第二要件 因テ他人ノ財物ヲ盜取シタルコト 財物盜取ノ手段トシテ昏醉セ

シメタルコトヲ要ス、故ニ縱令昏醉状態ニ在ル人ノ財物ヲ盜取シタリトスルモ昏醉カ犯人ノ所爲ニアラサルトキハ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ、即チ例セハ夫ノ旅客ノ自ラ酩酊熟睡セル隙ニ乘シテ拘取スルカ如キ場合ハ第二百三十五條ノ普通竊盜罪ニシテ本條ノ罪ニアラス

二處分 本罪ヲ犯シタルモノモ亦強盜ヲ以テ論スルカ故ニ五年以上ノ有期懲役ニ處セラルヘシ

第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ強盜人ヲ死傷ニ致シタル場合ノ規定ナリ(舊刑法第三百八十條)

一 成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)強盜行爲アルコト(二)人ヲ傷シ又ハ死ニ致シタルコト是ナリ、左ニ分説スヘシ

第一要件 強盜行爲アルコト 法文強盜人ヲ傷シタルトキト明示スルカ故ニ先ツ強盜行爲アルニアラサレハ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリト雖モ既ニ強盜行爲アリト云ヒ得ル以上ハ其既遂タルト未遂タルトヲ問ハス、又財物奪取ノ爲メニ人ヲ死傷シタルト既ニ財物ヲ得タル後ニ至テ人ヲ死傷シタルトヲ區別

セス、要ハ強盜行爲アリタル場所ニ於テ人ヲ死傷シタル場合ハ常ニ本罪トシテ論スヘキナリ、而シテ第三百三十八條及ヒ第三百三十九條ノ所謂準強盜ノ場合ニ於テモ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ仍ホ本罪ヲ以テ論スヘキモノナルコト學說判例ノ一致スル所ナリ

第二要件 人ヲ死傷シタルコト 本罪ハ所謂結果犯ナルヲ以テ強盜行爲アリタル現場ニ於テ死傷ノ結果ヲ生シタル以上ハ死傷ニ付テハ故意ニ出テタルト否トヲ問ハサルカ故ニ假令殺人ノ意思ヲ以テ人ヲ斬害スルモ未タ死ニ至ラサル場合ハ強盜傷人ナルト同時ニ假令殺人ノ意思ニ出テサルモ人ヲ死ニ致シタル場合ハ強盜殺人ナリ、然レトモ殺意ヲ以テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ於テハ一所爲ニシテ強盜及ヒ殺人ノ二法條ニ觸ル、モノトシテ刑法第五十四條ニ則リ重キニ從ヒテ處斷スヘク、又強盜行爲ハ單一ナルモ同時ニ數人ヲ死傷セシメタルトキハ數箇ノ強盜死傷罪成立スヘキモノトス蓋シ身體生命ニ對スル法益侵害ハ其人毎ニ各々一罪ヲ生スヘキモノナレハナリ是レ判例ノ是認スル所ナリ

二處分 強盜人ヲ傷シタル場合ニ於テハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處スヘク死

ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス蓋シ本罪ハ結果重大ナルヲ以テ其科刑モ亦峻嚴ヲ極ムルコト當然ナルノミ

第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

本條ハ強盜強姦ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百八十一條)

(甲)前段ノ罪 本條前段ハ單ニ強盜婦女ヲ強姦シタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)強盜行爲アリタルコト、(二)婦女ヲ強姦シタルコト、是ナリ、而シテ本罪ハ前條規定ト其趣旨ヲ同シウスルヲ以テ前條及ヒ第七十七條ノ強姦罪ニ關スル規定ヲ參照スレハ自ラ了解セラルヘキニヨリ之ヲ略ス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス

(乙)後段ノ罪 本條後段ハ強盜強姦ノ結果婦女ヲ死ニ致シタル場合ノ規定ナリ、舊刑法ニ於テハ強盜致死及ヒ強盜強姦ニ付テハ規定スル所アリシモ強盜強姦致死ノ場合ニ關シテハ規定スル所ナカリシ結果適用上疑義アルヲ免レサリシカ本法

ハ明文ヲ以テ之ヲ解決シタリ

一、成立要件 本罪ハ(一)強盜婦女ヲ強姦シタルコト、(二)因テ之ヲ死ニ致シタルコトノ二要件ヨリ成ル、而シテ是等要件ハ第二百三十六條、第七十七條及ヒ第二百三十三條等ノ説明ヲ參照スレハ自ラ了解シ得ヘキカ故ニ別ニ説明ヲ與ヘス
二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス、罪質重大ナルヲ以テ之ニ極刑ヲ科スルコト必然ナルノミ

第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本條ノ罪ニ付テハ之ヲ他人ノ財物ト看做ス

本條ハ自己ノ財物ト雖モ一定ノ條件ノ下ニ於テハ之ヲ他人ノ財物ト同一視スヘキコトヲ規定シタルモノナリ、舊刑法第三百七十一條

竊盜及ヒ強盜ノ罪ハ財物ニ對スル他人ノ所持ヲ侵害スルヲ以テ其本質トナス、從テ其目的物ハ他人ノ所持内ニ屬スルコトヲ要シ自己ノ財物ニ對シテハ盜罪ノ成立セサルコトヲ本則トス、然レトモ自己ノ財物ナリト雖モ之ニ對シ他人カ有スル權利重大ニシテ自己カ任意處分ヲ爲シ得サル一定ノ條件アル場合ニ於テハ法律ハ其物ニ對スル他人ノ權利關係ヲ保護スル必要アリ是レ即チ本條規定アル所以

ナリ而シテ所謂一定ノ條件トハ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルコトヲ謂フ他人ノ占有ニ屬スルトハ他人カ其財物ニ付キ或ル權利關係例セハ質權若クハ留置權等ノ爲メニ占有權ヲ有シ之ヲ保有シアリタルカ如キヲ謂ヒ公務所ハ命ニ因リ他人ノ看守シタルトハ例セハ執達吏若クハ稅務官吏等カ差押ヲ爲シ自身又ハ他人ヲシテ特ニ之ヲ看守セシメタルカ如キ場合ヲ謂フ此ノ如ク他人カ其財物ニ對シ占有ヲ持續シツ、アル場合ニ於テハ犯人自己ノ財物ナリト雖モ之ヲ竊取シ若クハ強取シタルトキハ他人ノ財物ニ對スル場合ニ同シク竊盜若クハ強盜罪トシテ處分セラル、ナリ

第二百四十三條 第二百三十五條 第二百三十六條 第二百三十八條 乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章中ノ未遂罪ヲ罰スヘキ場合ヲ規定ス(舊刑法第三百七十五條) 法文ハ未遂ノ罰スヘキ場合ヲ列舉ス、即チ(一)竊盜罪 第二百三十五條 (二)普通強盜罪 (第二百三十六條) (三)準強盜罪 第二百三十八條 第二百三十九條 (四)強盜致死傷罪 第二百四十條 (五)強盜強姦罪 第二百四十一條 是ナリ

第二百四十四條 直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五

條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ所謂親族相盜ニ關スル特別規定ニシテ畢竟自然ノ人情ヲ重シ親族間ニ於ケル平和ヲ維持セントスル趣旨ニ出ツ(舊刑法第三百七十七條)

第一項 本項ハ犯人カ被害者ト一定ノ親族關係アル場合ニ於テハ或ハ其刑ヲ免除シ或ハ告訴ヲ待テ之ヲ罰スヘキ旨ヲ規定シタリ便宜左ニ分説スヘシ

(甲) 刑ハ免除ハ場合 此恩典ヲ享有スルニハ(一)犯人ハ被害者トノ間ニ於テ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ナル關係アルコト (二) 第二百三十五條ノ罪若クハ其未遂罪ヲ犯シタルコトノ二要件ヲ具備セサル可ラス

第一要件 犯人ハ被害者トノ間ニ於テ直系血族配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ナル關係アルコト 血族トハ其始祖ヲ同シウスル一血統ニ屬スル一團ニシテ是ニ直系ト傍系トノ別アリ直系血族トハ父ヨリ子ニ子ヨリ孫ニ………順次相及ホス所ノ血族ヲ謂ヒ伯姪ノ關係ノ如ク支系ニ亘ルモノヲ傍系血族ト謂フ而シテ直系血族タル以上ハ同居スルト否トヲ問ハス配偶者トハ民法上正當ナ

ル婚姻ニ因リ成立シタル夫婦ヲ謂フ從テ内縁ノ夫婦ヲ含マス親族トハ民法第七百二十五條ニ列記セル六親等内ノ血族三親等内ノ姻族及ヒ配偶者ヲ謂フ但シ配偶者ニ關シテハ特ニ規定アルヲ以テ茲ニ所謂親族中ヨリ除外スヘシ家族トハ戸主ノ親族ニシテ其家ニ在ル者及ヒ其配偶者ヲ謂フ但シ茲ニ家ト云フハ即チ法律上ノ家ト云フ義ニシテ事實上ノ家ヲ云フニ非サルコトヲ注意スヘシ

第二要件 第二百三十五條ハ罪若クハ其未遂罪ヲ犯シタルコト 前示第一要件ニ掲ケタル親族關係アル者ニシテ竊盜罪若クハ其未遂罪ヲ犯シタルコトヲ要スルカ故ニ強盜罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ刑ヲ免除スルノ限リニ在ジス

以上二要件ヲ具備シタルトキハ裁判所ハ必ス其刑ヲ免除セサル可カラス然レトモ刑ノ免除ハ犯罪不成立ニ非ラス犯罪成立スルモ其身分關係ニ鑑ミ其刑ヲ科セサルノミ從テ此場合ニ於ケル財物ハ贓物タルヲ失ハサルカ故ニ之ニ關シテハ贓物罪成立スヘキコト勿論ナリ

乙) 告訴ヲ待テ論スヘキ場合 法律カ親告罪トナシタル親族相盜ハ(一)主體ハ前示第一要件ニ列記シタル以外ハ親族又ハ家族ナルコト(二)第二百三十五條ハ罪若クハ其未遂罪ヲ犯シタルコトノ二要件ヲ具備セサル可カラス而シテ是等要件

ノ意義ハ刑ノ免除ノ場合ニ付キ説明シタル所ヲ推シテ了解シ得ヘキカ故ニ之ヲ略ス

以上二要件ヲ具備シタルトキハ告訴アルニ非ラサレハ其罪ヲ論セス蓋シ本問ノ場合ハ前場合ニ比シ犯人ト被害者トノ間ニ於ケル親族關係遙カニ疎ナルヲ以テナリ

第二項 本項ハ親族相盜者ノ共犯人ニ關スル規定ナリ

抑本條第一項ニ於テ親族相盜者ニ對シ刑ヲ免除シ又ハ親告ヲ要スルモノトシタルハ法律カ親族間ニ於ケル情誼ヲ破壞センコトヲ慮リタルニ出テタル特別規定ナリ故ニ被害者ト何等特別關係ナキ共犯者ハ之ヲ處罰スルモ何等ノ支障ヲ見サルノミナラス自己ノ共犯者カ被害者ト特別關係アルカ爲メニ恩典ヲ受クヘキ理由ナキヲ以テ法律ハ此場合ニ於ケル共犯者ニ對シテハ前項ノ例ヲ用ヒサルコトヲ明示シタリ從テ是等共犯者ハ普通竊盜犯トシテ第二百三十五條若クハ第二百四十三條ノ適用ヲ受クヘキナリ

第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

本條ハ本章ノ竊盜及ヒ強盜ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト同一視シテ其目的物

トナリ得ルコトヲ規定シタリ
 本章ニ所謂財物トハ前述シタルカ如ク財産的價值アル有體物ヲ指稱ス、電氣カ財産的價值ヲ有スル物ナルコトハ疑ナキ所ナリト雖モ其所謂有體物ニ非ラストスルヲ通説トナスヲ以テ本章規定ノ竊盜若クハ強盜ノ罪ノ目的物タルヲ得ルヤ否ヤニ關シテハ疑義アルヲ免レス、曾テ我大審院ハ本問ニ對シ積極的解釋ヲ與ヘタリト雖モ猶科學上議論ノ餘地アリ、而カモ工業發達シタル現代ニ於テハ電氣ニ關聯スル實際問題頻繁ニ惹起セラレヘキ趨勢ナルヲ以テ本法ハ茲ニ本條ヲ設ケテ本章ノ罪ニ關シテハ電氣ヲ財物ト同一視スヘキモノナルコトヲ規定シ明文ヲ以テ疑義ヲ未然ニ防止シタリ、從テ竊ニ他人ノ電氣ヲ使用シタルモノハ竊盜罪タルヘク暴行脅迫ニ因リタル場合ハ強盜罪タルヘキナリ

第三十七章 詐欺及恐喝ノ罪

一、詐欺ノ罪トハ詐欺手段ヲ以テ他人ヲ欺罔シ因テ其財物ヲ騙取シタル所爲ヲ謂ヒ、恐喝ノ罪トハ恐喝ノ手段ヲ加ヘテ他人ヲ畏怖ヒシメ財物ヲ交付セシメタル所爲ヲ謂フ、故ニ此二罪モ亦前章規定ノ強竊盜罪ニ同シク不法ニ他人ノ財物ヲ收得

スルニアリテ其本質ハ一種ノ盜罪ナリ、故ニ前改正草案ニ於テハ財産ニ關スル罪中賊盜ノ罪ト題スル一節ニ於テ竊盜ノ罪、強盜ノ罪、恐喝ノ罪及ヒ詐欺盜ノ罪ナル題下ニ相併セテ之ヲ規定セシカ本法ハ其手段ヲ異ニセル點ヨリ觀テ強竊盜ノ罪ト別チテ本章ニ之ヲ規定シタリ
 二、本章規定ハ舊刑法第三編第二章第五節詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪ト題スル規定中、受寄財物ニ關スル罪ノ大部分ハ之ヲ別チテ次章ニ規定シ殘餘ノ一部ト詐欺取財ニ關スル規定トヲ併セ補修シタルモノニ係ル、左ニ其主要ナル修正點ヲ舉示セン

(イ) 舊刑法ニ於テハ欺罔取財ト恐喝取財ト同一法條第三百九十條第一項ニ規定シタリシモ二者自ラ異ナル所アルヲ以テ本法ニ於テハ之ヲ區別シ恐喝取財ノ罪ハ之ヲ別條ニ規定シタリ

(ロ) 舊刑法ハ詐欺取財ノ手段トシテ文書ヲ偽造行使シタル場合ヲ實質上ノ一罪トシテ特ニ其第三百九十條第二項ニ於テ規定スル所アリシカ本法ニ於テハ總則第五十四條ニ手段結果ノ關係アル場合ニ關スル通則ヲ設ケタリシヲ以テ本罪ニ關スル此特例ヲ置クノ要ナシトシテ之ヲ削除シタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ詐欺又ハ恐喝ノ手段ニ因リテ財産上不法ノ利益ヲ得若シクハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル所謂消極的詐欺若クハ恐喝ニ關シ規定スル所ナカリシト雖モ此場合ニ於ケル實害モ亦積極的ニ他人ノ財物ヲ騙取シ又ハ之レカ交付ヲ受ケタル場合ニ異ナラサルヲ以テ本法ハ之ニ關スル規定ヲ補足シタリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ他人ノ事務處理ニ任スル者其任務ニ違背シタル所業ヲ敢テシ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル場合ニ付キ規定ヲ缺如シタリ抑此ノ如キ場合ニ於テハ理論上民事訴訟ニ依リ救済ヲ求ムル途ナキニアラスト雖モ事實上ハ概ネ其救済ナキト同一ニ歸スルノミナラス其行爲ハ亦一種ノ詐欺的行爲ト云ヒ得ヘキカ故ニ本法ハ特ニ之ニ關スル規定ヲ補足シタリ

(ホ) 舊刑法ニ於テハ物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ偽テ人ニ交付シタル場合(舊刑法第三百九十二條)及ヒ他人ノ動産不動産ヲ冒認シタル場合(同法第三百九十三條)ニ關シ特ニ規定スル所アリシト雖モ此ノ如キハ所謂欺罔手段ノ一場合ニ過キサレカ故ニ特ニ之ニ關スル規定ヲ存置スル要ナキヲ以テ本法ハ凡テ之ヲ削除シタリ

三、本章規定スル所總テ六條、其内容ヲ大別スレハ(一)欺罔取財罪(第二百四十六條)(二)背任罪(第二百四十七條)(三)準欺罔取財罪(第二百四十八條)及ヒ(四)恐喝取財罪(第二百四十九條)是ナリ、左ニ各本條ニ付キ之ヲ略説スヘシ

第二百四十六條

人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同

本條ハ所謂欺罔取財罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百九十條第一項)

第一項 本項ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル所謂有形的騙取罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)人ヲ欺罔シタルコト(二)因テ財物ヲ騙取シタルコト是ナリ

第一要件 人ヲ欺罔シタルコト 所謂欺罔トハ人ヲシテ虛偽ノ事實ヲ信セシメ錯誤ニ陥ラシムル義ナリ、即チ欺罔ノ結果トシテ他人カ錯誤ニ陥リタルコトヲ要スルカ故ニ欺罔行爲アルモ相手方カ錯誤ニ陥ラサリシ場合ハ未タ以テ本罪ノ既遂ヲ以テ論スルヲ得サルヘシ、我刑法ハ單ニ人ヲ欺罔シテト云ヒテ其手

段ヲ限定セサルカ故ニ例セハ氏名資格等ヲ詐ハリ又ハ無根ノ事實ヲ虛構シ若クハ眞正ナル事實ヲ變更隱蔽シタルト其他ニ因リタルトヲ區別セスト雖モ事實ニ非スシテ單ニ意見ノ主張ニ過キサルモノハ本罪ヲ構成セス例セハ明年電車開通スレハ地價騰貴スヘシト云ヘルヲ聞知シタル他人カ眞ニ其然ルヘキヲ信シ地所ヲ比較的高價ニ買入レタリシニ其豫期ニ反シ損失ヲ蒙ムリタリトスルモ茲ニ所謂欺罔ニ非ラス然レトモ欺罔手段ハ必ラスシモ積極的行爲タルコトヲ要セサルカ故ニ他人カ錯誤ニ陥リタルコトヲ防止スル義務アル者カ其義務ニ違背シタル消極的行爲モ亦本罪ヲ構成スヘキナリ即チ例セハ或物件ヲ他人ニ寄託シ置キ之カ返還ヲ受クルニ當リ他人カ誤テ其寄託物ト共ニ他ノ物件ヲ返還シタル場合ニ於テ犯人ハ其誤謬ヲ知レルニモ拘ハラス故ラニ其誤謬ヲ告ケス其儘交付ヲ受ケタリシカ如キハ明ニ詐欺取財ヲ構成スヘキモノトス又夫ノ無錢飲食ノ場合ノ多クモ所謂消極的詐欺取財タリト雖モ美服ヲ着用シ相當支拂能力アルモノ、如ク裝ヒタル場合ハ寧ロ之ヲ積極的手段ニ因ル詐欺取財罪ト解スルヲ相當ナリト信ス

第二要件 因テ、財物ヲ騙取シタルコト 茲ニ所謂騙取トハ錯誤ニ陥リタル結果

果相手方ヲシテ有形的ニ財物ヲ交付セシムルヲ謂ヒ其對價ヲ供シタルト否トハ本罪ノ成立ニ影響ナシ故ニ犯人カ或ル對價ヲ供シタル場合ニ於テハ其對價ト交付シタル物件ノ價格トヲ相殺シテ殘餘ニ對スル取財アリトナスハ正當ナラス騙取ハ相手方カ錯誤ノ結果任意ニ財物ヲ交付シタルコトヲ其本質トナスカ故ニ縱令欺罔手段ヲ施シ相手方ヲ錯誤ニ陥ラシメタル事實アリトスルモ被害者ノ意思ニ反スル財物ノ收得ハ所謂詐欺取財罪ヲ構成セス即チ例セハ或ル欺罔手段ヲ以テ相手方ヲ瞞着シ外出セシメ其虛ニ乘シテ竊ニ財物ヲ盜取シタル場合ノ如キハ本罪ニ非ラスシテ純然タル竊盜罪タリ然レトモ欺罔セラレタル者ト財物ヲ交付シタル者トハ同一人タルコトヲ必要トセサルカ故ニ甲者ヲ欺罔シテ乙者ノ手ヨリ財物ノ交付ヲ受クル場合モ亦詐欺取財タルヲ失ハス是レ實際ニ於テ數々其例ヲ見ル所ニシテ例セハ偽造證書ヲ作成シテ之ニ基ツキ訴訟ヲ提起シ裁判所ヲ欺罔シテ勝訴ノ判決ヲ得以テ取訴者ヨリ財物ヲ騙取スルカ如シ而シテ刑法ハ不正ノ財產侵害ヲ處罰スルニアルヲ以テ縱令欺罔手段ヲ以テ他人ヨリ財物ノ交付ヲ受クルモ自己カ正當ニ請求スヘキ權利ヲ實行シタルニ過キサル場合ニ於テハ本罪ヲ構成セストハ夙ニ我大審院ノ判示スル所

ナリト雖モ但シ反對說アルコトヲ注意スヘシ反之被欺罔者カ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタル故ヲ以テ民法上求償權ヲ實行シ能ハサル場合ニ於テモ苟クモ犯人ニ於テ欺罔手段ニ因リ之ヲ騙取シタルトキハ本罪ヲ構成ス例セハ貨幣偽造ノ資金名義ノ下ニ金圓ヲ騙取スルカ如キハ實際上往々之ヲ見ル

本罪ノ目的物タル財物ト云フハ廣ク財産的價值ヲ有スル有形ノ物タルコトヲ意味シ動産ト不動産トヲ區別セス此ノ點ニ於テ前章規定ノ強竊盜罪ニ於ケル財物ト異ナル而シテ不動産ハ其性質上犯人カ有形的ニ握持スルコト能ハサルモノナルヲ以テ此場合ニ於ケル騙取行爲ハ犯人カ任意ニ之ヲ處分シ得ヘキ狀態ニ至レルヲ以テ成ルモノトス通常ノ場合ニ於テハ登記經由ヲ以テ騙取アリタリト云ヒ得ヘシト雖モ必ラスシモ之アルヲ要セス何トナレハ當事者間ニ於テハ賣買ハ合意ノミヲ以テ物權移轉ノ效果ヲ生スルコト民法上ノ原則ナレハ不動産騙取モ亦賣買ノ合意アリタル時期ヲ以テ完成スルモノトス

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス舊刑法カ僅ニ重禁錮四年ヲ科シタルニ比シ著シク擴大セラレタリ蓋シ本法ハ數々云ヘル如ク包括的規定ヲ設ケタル結果其犯情ニ適應セシムヘク刑期ヲ定ムル必要アリシヲ以テナリ

第二項 本項ハ所謂無形的騙取ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件モ亦二ナリ即チ(一)人ヲ欺罔シタルコト(二)因テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコト是ナリ而シテ右第一要件ハ既ニ前項ニ説明シタル所ニ同シケレハ之ヲ略シ第二要件ニ付一言セン

財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシムト謂フハ正當ノ權利ニ因ラズシテ他人ヨリ財産上ノ利益ヲ自己カ取得スルカ又ハ第三者タル他人ヲシテ之ヲ取得セシムルノ謂ニシテ其財産上ノ利益ハ法律上有效ニ之ヲ取得シ又ハ取得セシムルコトヲ要セス假令其利益取得ハ法律上無効ナリトスルモ苟クモ一旦形式的(外形)ニ之ヲ取得シタル以上ハ茲ニ犯罪ハ成立ス唯茲ニ注意スヘキハ第三者ヲシテ財産上ノ利益ヲ取得セシムト云フハ犯人ト其第三者トノ間ニ共謀關係ナキコトヲ必要トナスノ點ナリ若シ二人間ニ共謀ノ事實アリトスレハ假令其一人カ欺罔シ他ノ一人ヲシテ利得セシメタリトスルモ本罪ニアラスシテ前項ノ罪ノ共謀ヲ以テ論スヘキナリ而シテ本罪ハ夫ノ無錢遊興、無錢飲食、無錢乘車等ノ形ニ於テ數々吾人ノ實際ニ遭遇スル所ナリ

抑自己ノ欺罔手段ニ因リテ他人ヲシテ利得セシメタル場合ハ犯人ハ實際何等利得スル所ナキヲ以テ之ヲ詐欺罪トシテ處罰スルハ一見頗ル不當ノ觀アリト雖モ其相手方ノ蒙ルヘキ財産上ノ損害ハ犯人自ラ取得シタルト他人ヲシテ取得セシメタルトニ因リ毫モ輕重スル所ナキカ故ニ法律ハ之ヲ一樣ニ處罰スルコト、シタリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項規定ノ有形的騙取ノ場合ニ同シク十年以下ノ懲役ニ處ス、蓋シ罪質同一ニシテ被害者ノ受クヘキ害、犯人ノ得ヘキ利得二者共ニ輕重スル所ナキヲ以テ之ニ同一刑ヲ科シタルナリ

第二百四十七條

他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ハ他人ノ爲メニ其事務ヲ處理スル者ノ背任行爲ヲ罰スル規定ニシテ舊刑法ニ見サル新規定ナルコト冒頭ニ云ヘルカ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ四トナス、即チ(一)主體ハ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者ナルコト(二)自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル

目的ヲ以テシタルコト(三)其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シタルコト(四)因テ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルコト是ナリ左ニ逐次分説スヘシ

第一要件

主體ハ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者タルコト 他人ノ爲メト云フハ他人ノ利益ノ爲メニト云フニ同シク他人ノ利益ノ爲メニ其計算ニ於テ事務ヲ處理スルモノナル以上ハ委任ニ因ルト、事務管理ニ因ルト、其他法定上ノ原

由(例セハ後見、財産管理等)ニ因リタルトヲ區別セス、又法律ハ其事務ノ性質ニ付キ何等ノ制限ヲ爲サ、ルカ故ニ其財産上ニ關スルモノナルト否トヲ問ハサルノミナラス必ラスシモ法律行爲ヲ爲ス場合ニ限ラスト解ス

第二要件

自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テシタルコト 本罪ハ少ナクトモ如上ノ三目的中其一ニ出テタルコトヲ要ス

從テ此目的ヲ缺如シタルトキハ縱令背任行爲アリテ爲メニ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル事實アリトスルモ唯民法上ノ損害賠償ノ義務アルニ止マリ敢テ本條ニ該ラス、而シテ茲ニ所謂利益若クハ損害トハ單ニ財産上ノモノニ限り非

第三要件

任務ニ背キタル行爲ト 所謂任務ニ背キタル行爲ト

ハ他人ノ事務ヲ處理スルニ當リ故意ニ其注意ヲ缺キタル場合ハ勿論爲スヘキ
ヲ爲サス爲ス可ラサルヲ爲シタル總テノ場合ヲ包含ス民法及ヒ商法ハ他人ノ
爲メニ事務ヲ處理スル者ノ責任ニ付キ諸多ノ規定ヲ設ケ以テ本人ノ利益ヲ保
護スト雖モ猶ホ本法ハ其惡意ニ出テタル背任行爲ハ之ヲ處罰スヘキモノトス
但シ縱令刑法上ニ於テ處罰ヲ受クルト雖モ民事上損害賠償ノ義務ヲ免ルハ、ヲ
得サルコト勿論ナリ

第四要件 本人ニ財産上ハ損害ヲ與ヘタルコト 背任行爲ノ結果本人ニ財産
上ノ損害ヲ負ハシメタルコトヲ要スルカ故ニ背任行爲アルモ未タ此結果ヲ生
セサルニ於テハ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリ然レトモ委任其他ノ事由ニヨ
リテ自己ノ占有中ニアル他人ノ物ヲ横領シタル場合ニ關シテハ特ニ次章ニ其
規定アルヲ以テ茲ニ所謂財産上ノ損害ハ此場合ヲ除外スヘキコト當然ナリ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス別ニ說
明ヲ加フルノ要ナカルヘシ

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシ
メ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ

懲役ニ處ス

本條ハ所謂準詐欺取財罪ニシテ人ノ精神狀態不完全ナルニ乘シ財物ヲ交付セシ
メタル場合ノ規定ナリ(舊刑法第三百九十一條)

一成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)未成年者ノ知慮淺薄又ハ人
ノ心神耗弱ニ乘シタルコト(二)之ヲ利用シテ財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ
利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコト是ナリ分説スルコト左ノ如シ

第一要件 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シタルコト 未成年者
トハ二十歳未滿者ニシテ男女ヲ區別セス未成年者ハ身心未發達ノ域ニ在ルヲ
以テ概シテ其知慮ハ淺薄タルヲ免レスト雖モ既ニ成年ニ近キモノニアリテハ
必ラスシモ然リト云フ得ス故ニ法律ハ未成年者ニシテ而カモ知慮淺薄ナル
者ニ對スルニ非ラサレハ本罪ヲ構成セサルモノトナセリ心神耗弱トハ心神喪
失ト云フヘキ程度ニ至ラサル精神障礙ヲ意味シ通俗ニ所謂馬鹿者若クハ老耄
者ノ類ハ之ニ屬ス是等二者ハ通常人ニ比シ判斷力缺乏ノ狀態ニ在ルモノナル
ヲ以テ此不完全ナル狀態ヲ利用シテ財物ヲ交付セシメタルニ於テハ詐欺若ク
ハ恐喝ノ手段ニ因ラサル場合ト雖モ猶ホ之ヲ通常人カ任意ニ交付シタルト同

一、視スヘカラサルコト當然ナルヲ以テ法律ハ準詐欺取財罪トシテ處罰スヘキモノト爲シタリ、然レトモ本罪ハ單ニ相手方カ未成年者若クハ心神耗弱者ナルノミニテハ足ラス犯人カ此状態ヲ利用シタルコトアルヲ要ス、而シテ若シ此状態ヲ利用シタルニ於テハ別ニ欺罔手段ヲ弄シタルヲ要セス

第二要件 其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若シクハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコト 本條ハ財物ノ交付ト云ヒテ第二百四十六條ノ騙取ト區別シタリ、何トナレハ本條ニハ欺罔ノ手段ヲ必要トセサル結果之ヲ騙取ト云フヲ得サレハナリ、此場合ニ於テモ犯人カ對價ヲ供シタルト否トハ犯罪ノ成否ニ關係ナシ其他ノ説明ニ付テハ第二百四十六條ヲ參照セラルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス、罪質詐欺ナレハ其科刑亦相匹敵セルハ當然ナリ

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス、前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

本條ハ恐喝取財罪ニ關スル規定ナリ舊刑法第三百九十條第一項

第一項 本項ハ人ヲ恐喝シテ有形的ニ財物ヲ交付セシメタル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別チテ二トナス、即チ(一)人ヲ恐喝シタルコト(二)因テ財物ヲ交付セシメタルコト是ナリ

第一要件 人ヲ恐喝シタルコト 本罪モ亦前述シタル強盜罪及ヒ詐欺罪ト同シク他人ノ財産ニ對スル侵害ノ罪ナリト雖モ彼ニアリテハ暴行脅迫若クハ欺罔ヲ手段トスルニ反シ此ニアリテハ恐喝ヲ手段トシタル差異アルノミ、所謂恐喝トハ人ニ害惡ヲ通知シテ畏怖心ヲ惹起セシムル義ニシテ其方法ノ如何ヲ論セス從テ恐喝者ニ於テ直接ニ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トスル場合ニ限ラス間接ニ第三者ノ行爲又ハ天災等ニ依リ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トナス場合ヲモ包含スルコト勿論ナリト雖モ至ク相手方ノ自由意思ヲ抑壓スルニ至リタル場合ヲ除外ス、例セハ無賴漢數名相連レテ飲食店ニ至リ酒食ヲ饜セサレハ後來ノ爲メニ惡シカルヘシ等不穩ノ言語態度ヲ示シ酒手ヲ得ルカ如ク若クハ人ノ惡事醜行ヲ聞知シタルニ乘シ之ヲ新聞紙ニ掲載スヘシト申込ミ運動費名義ノ下ニ金圓ヲ受領スルカ如キハ吾人ノ日常數々見ル所ナリ

第二要件 因テ、財物ヲ、交付セシメタルコト、本要件ハ前條第二要件ノ下ニ於テ述ヘタル所ニ同シケレハ再說セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス、舊刑法ニ比シ、刑期範圍擴大セラレタルコト、竊盜、詐欺ニ於ケルト同シ

第二項 本項ハ人ヲ恐喝シテ財產上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル場合、即チ本法ニ於テ新ニ補足セラレタル所謂無形的恐喝取財ニ關スル規定ニシテ其罪素ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件モ亦二ナリ、即チ(一)人ヲ恐喝シタルコト、(二)因テ、財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタルコト、是ナリ而シテ本項規定ハ第二百四十六條第二項ノ趣旨ニ同シキヲ以テ同條及ヒ前項說明ヲ參照シテ之ヲ了解スヘシ

二、處分 法文亦同シトアリ、故ニ本罪ヲ犯シタル者ハ前第一項ノ罪ニ同シク十年以下ノ懲役ニ處スヘキナリ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

本條ハ本章ノ未遂罪ハ之ヲ處罰スヘキモノナルコトヲ規定シタルモノニシテ總

則第四十四條ノ結果ナリ別ニ說明ヲ加フル要ナシ

第二百五十一條 本章ノ罪ニハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ第二百四十二條、第二百四十四條及ヒ第二百四十五條ノ規定ハ之ヲ本章ノ罪ニ準用スヘキコトヲ規定シタルモノナリ故ニ自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタル場合之ヲ詐取シ又ハ恐喝シテ交付セシメタルトキハ欺罔取財若クハ恐喝取財ノ罪ヲ構成スヘク第二百四十二條參照犯人ト被害者トノ間ニ直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族タル關係アルトキハ詐欺又ハ恐喝ノ罪若クハ其未遂罪成立スルモ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ俟テ之ヲ論スヘキモ是等身分關係ナキ共犯者ニ對シテハ此恩典ナシ(第二百四十四條參照)又詐欺若クハ恐喝ノ手段ニ因リ電流ヲ使用シタルモノハ純然タル詐欺罪若クハ恐喝罪トシテ處分セラレヘキナリ(第二百四十五條參照)

第三十八章 橫領ノ罪

一、本章規定モ亦前二章ニ規定シタル強竊盜及詐欺恐喝ノ罪ト共ニ他人ノ財産侵害ニ對スル罪ニシテ其本質ハ一ノ盜罪ニ外ナラス、而シテ本章ハ舊刑法第三編第二章第五節中ノ受寄物ニ關スル罪、第三節遺失物埋藏物ニ關スル罪及ヒ第二編第九章第三節官吏財産ニ對スル罪ヲ包括修正セラレタルモノニ係ル、左ニ其主要ナル點ヲ舉示スヘシ

(イ) 舊刑法ニ於テハ委託ヲ受ケタル場合ニ關シ一般的规定ヲ設ケタルニ止マリシト雖モ(官吏管掌ニ關シ特別規定アリタリ)其寄託ノ業務上ニ出テタル場合ト非業務上ニ出テタル場合トハ著シク其犯情ヲ異ニスヘキカ故ニ本法ハ之ヲ區別シ業務上ノ横領ニ對シテハ特ニ重刑ヲ科シタリ

(ロ) 舊刑法第三百九十五條ハ……其他委託ヲ受ケタル金額物件ヲ云々ト規定シタルヲ以テ其占有スルニ至リシ原由ヲ委託ニノミ限リタルヤノ觀アリテ疑義ヲ生スルヲ免レサリシカ本法ハ一般のニ自己ノ占有スル云々ト規定シ以テ其疑義ヲ解決シタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ行爲ヲ費消又ハ騙取、拐帶ニ限定シタリシヲ以テ狹キニ失シ適用上不便アル嫌ナキ能ハサリシヲ以テ本法ハ單ニ横領ナル汎博的ノ文詞

ヲ用ヒテ適用ヲ廣カラシメタリ

(ニ) 舊刑法第三百八十五條、第三百八十六條等ニ於テハ遺失物、漂流物及ヒ埋藏物ニ付テ各別ニ規定シアリト雖モ本法ハ汎ク他人ノ占有ヲ離レタル物ヲ取得シ之ヲ横領シタル場合ニ付キ規定シ以テ一切ノ場合ヲ包含セシメタリ

二、本章規定スル所僅ニ四條、其内容ヲ大別スレハ(一) 一般的横領罪(第二百五十二條)(二) 業務上ノ横領罪(第二百五十三條)及ヒ(三) 遺失物等ノ横領罪(第二百五十四條)ノ三トナス、左ニ各本條ニ付テ逐次之ヲ略説スヘシ

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處スル
自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

本條ハ所謂一般横領罪ニ關スル規定ナリ(舊刑法第三百九十五條、第三百九十六條)
第一項 本項ハ自己ノ占有中ニアル他人ノ物ニ關スル場合ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一) 目的物ハ自己ノ占有スル他人ノ物タルコト、(二) 之ヲ横領シタルコト是レナリ

第一要件 目的物ハ自己ハ占有スル他人ノ物ナルコト 所謂自己ハ占有スル他人ノ物トハ自己ノ實力支配ノ下ニアル他人所有ノ物ヲ謂ヒ、動産不動産ヲ區別セスト雖モ權利自體ヲ含マス動産ニ關シテハ別ニ之ヲ説明スルヲ俟タスシテ明白ナルヘシト雖モ不動産ニ關シテハ自己カ任意ニ處分シ得ヘキ狀態即チ登記上自己名義タル場合ヲ云フニ外ナラス例セハ委託ノ目的ヲ以テ假裝賣買ニ因リテ買主カ登記上所有名義ヲ有スルカ如シ、而シテ法文ハ單ニ自己ノ占有ニ屬スル他人ノ物ト云フヲ以テ業務上ニ出テタル場合ヲ除外スル外其之ヲ占有スルニ至リタル權限ノ如何ヲ問ハス、此點ハ舊刑法ニ於ケルヨリ一層廣シトス

第二要件 之ヲ横領シタルコト 所謂横領トハ自己ノ占有スル他人所有ノ物件ニ對シテ權限外ノ行爲ヲ爲ス一切ノ場合ヲ含ムモノト解ス、故ニ舊刑法ニ所謂費消ニ限ラス其他隱匿、使用拐帶、騙取ハ勿論自己カ從來他人ノ爲メニ占有シ居タリシ物ヲ中途惡意ヲ生シテ爾後自己ノ爲メニ占有シタルカ如キ場合ヲモ含ムモノトス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス、舊刑法ニ比シ著シク刑罰範

圍ヲ擴大セラレタリ

第二項 本項ハ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル自己ノ物ヲ横領シタル場合ノ規定ニシテ本法ノ新ニ補足シタル所ニ係ル、其成立要件ト處分トハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ自己ノ物ニシテ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタルコト(二)之ヲ横領シタルコト是ナリ

第一要件 目的物ハ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル自己ノ物タルコト 本罪ノ目的物ハ自己ノ物タルコトヲ要スルカ故ニ他人ノ物ナルトキハ縱令公務所ノ命ニヨリ保管ヲ爲シタル場合ナリト雖モ本項ノ罪ニ非ラスシテ前項ノ罪トナルヘシ、抑モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレテ之ヲ占有スル場合ハ縱令自己ノ物ナリト雖モ一時處分權ヲ制限セラレタルモノナルヲ以テ擅ニ之ヲ處分スルカ如キハ許ス可ラサル所ナルヲ以テ本法ハ舊刑法ノ缺ヲ補ヒ之ヲ罰スルコト、ナシタリ、故ニ例セハ執達吏若クハ稅務官吏カ差押處分ヲ爲シ其保管ヲ命シ置キタル物件ヲ脱漏藏匿セシメタルカ如キ場合ニハ本罪ヲ構成スヘキモノトス

第二要件 之ヲ横領シタルコト 本要件ハ前項第二要件ト全然同一ナルヲ以テ前述シタル所ヲ参照スヘシ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ前項ノ横領罪ニ同シク五年以下ノ懲役ニ處セラルヘシ

第二百五十三條 業務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ハ所謂業務上ノ横領罪ニ關スル規定ニシテ亦新刑法ノ一特色ナリトス

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ業務上自己ノ占有スル他人ノ物ナルコト、(二)之ヲ横領シタルコト是ナリ、左ニ分説スヘシ

第一要件 目的物ハ業務上自己ノ占有スル他人ノ物ナルコト 茲ニ所謂業務上ノ占有トハ(一)職務上占有スル場合ト(二)職業上占有スル場合トヲ含ム職務上ノ占有トハ公務員カ其職務ノ執行上物件ヲ保管スル場合即チ舊刑法第二百八十九條ニ所謂官吏自ラ監守スル所ノ金穀物件トアルニ同シク公務員カ自己ノ職責上之ヲ保管スル場合ニ限ル例セハ出納官吏カ其出納ニ係ル金錢物件ヲ占有スル如キ、執達吏カ差押物件ヲ占有スルカ如シ、從テ公務員ト雖モ之ヲ保管スヘキ職責ヲ有セサル者ニ關シテハ本罪成立セス(此場合ハ前條ノ普通横領罪タリ)職業上ノ占有トハ運送業者、倉庫業者等ノ如ク他人ノ爲メニ物件ヲ保管スル

コトヲ其業務ノ目的トシタル場合ハ勿論其他辯護士カ訴訟上相手方ヨリ受領シタル物件、會社ノ會計、集金係等カ會社ノ爲メニ受領シタル金錢物件若クハ電車ノ車掌カ乗客ヨリ受領シタル切符代等ノ如ク自己ノ從事スル職業ニ直接關聯シテ他人ノ物件ヲ占有スル場合ヲ謂フ、從テ夫ノ丁稚小僧カ主命ニ因リ受領シタル賣掛代金若クハ奴婢カ主命ニヨリ占有シタル買物代金等ノ如キハ之ヲ業務上ノ占有ト云フヲ得ヌ、要スルニ法律カ一年以上ノ重刑ヲ科シタル趣旨ヨリ考フルモ本條ハ業務ニ對スル世人ノ信頼ヲ確保セントスルニ在ルカ故ニ他人ノ業務ニ補助トシテ從事スルモノニ關シテハ包括的ノ權限ヲ有スル場合ニアラサレハ本條ヲ適用スヘキ限ニ在ラスト信ス

第二要件 之ヲ横領シタルコト 本要件ニ付テハ第二百五十二條第一項説明ヲ參照スヘシ

二處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス短期ト雖モ一年ヲ降ラス訴訟上重罪手續ニ從フヘキ重刑ナリ

第二百五十四條 遺失物漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ既ニ占有ヲ離レタル他人ノ物ヲ横領シタル場合ニ關スル規定ナリ、遺失物等ノ罪ニ關シテハ、舊刑法第三百八十五條第三百八十六條ニ規定スル所アリシヲ遺失物法第十六條ニ於テ之ヲ改メタリシカ本法ハ更ニ之ヲ刑法典中ニ回收規定セラレタリ從テ遺失物法第十六條ハ當然消滅ニ歸シタルモノトス(舊刑法三百八十五條、第三百八十六條、明治三十二年法律第八十七號遺失物法)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ遺失物、漂流物其他

占有ヲ離レタル他人ノ物ナルコト(二)之ヲ横領シタルコト是ナリ、左ニ分説スヘシ

第一要件 目的物ハ遺失物、漂流物其他占有ヲ離レタル他人ノ物ナルコト、前

二條ノ目的物ハ自己ノ占有中ニ屬シタルコトヲ要シタリシニ反シ本罪ハ既ニ占有ヲ離レタル他人ノ物タルコトヲ要ス、遺失物、漂流物ハ其例示ニ外ナラス他人ハ占有ヲ離レタル物トハ本人ノ意思ニ基ツカスシテ其占有ヲ離レタル物件ヲ謂フ、故ニ曾テ未タ占有者ナキ場合、他人カ誤テ占有ヲ移轉シタル場合若クハ他人カ明カニ之ヲ拋棄シタル場合ニハ本條ノ適用ナク、又一旦他人カ占有ヲ失フモ更ニ第二ノ他人カ占有スル場合、例セハ浴客カ湯屋ニ遺忘シタル物件ノ占有ハ湯屋ノ主人ニ移ルヘキカ故ニ之ヲ竊カニ持チ歸リタルトキハ本罪ニ非ラ

スシテ第二百三十五條ノ竊盜罪タルヘキコト從來判例ノ示ス所ナリ

第二要件 之ヲ横領シタルコト 本罪ニ於ケル横領ノ多クハ隱匿ナル形式ニ

於テ顯ハル其他之ヲ拾得シテ他人ニ賣却贈與等權限外ノ行爲ヲ爲シタル一切ノ場合ヲ含ム、猶此點ニ付テハ第二百五十二條ノ說明ヲ參照セラルヘシ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス、蓋シ本罪ハ固ト微罪ナルノミナラス途上或ハ偶然ニ僅少ノ物件ヲ發見拾得シ之ヲ其儘所持スルカ如キ其他場合ヲ想像セハ斟酌スヘキ情狀アルヘキヲ以テ本法ハ一年以下ノ懲役ヨリ二十圓未滿ノ科料ノ輕キニ至ルヲ得セシメタルナリ

第二百五十五條 本章ノ罪ニハ第二百四十四條ノ規定ヲ準用ス

本條ハ横領罪ニ關シ第二百四十四條ノ親族相盜ノ特別規定ヲ準用スヘキコトヲ規定シタルモノナリ(舊刑法第三百九十八條)

犯人ト物件ノ所有者トノ間ニ第二百四十四條ニ規定セル親族關係即チ直系血族同居ノ親族又ハ家族ノ間柄アル場合ニ於テハ第二百五十二條第一項、第二百五十三條及ヒ第二百五十四條ノ罪ヲ犯スト雖モ其刑ヲ免除シ其他ノ親族關係アルトキハ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スルモノトス、但シ其共犯者ニ對シテハ此恩典ナシ、而シ

テ第二百五十二條第二項ノ罪ニ關シテハ本條ノ適用ヲ見サルヘキコトハ其罪ノ性質ノ然ラシムル所ニシテ之レ法文ニ準用スト云フ所以ナリ

第三十九章 贓物ニ關スル罪

一、贓物ニ關スル罪トハ贓物タルノ情ヲ知テ之ヲ收受シ又ハ運搬、寄藏、故買若クハ牙保ヲ爲シタル罪ニシテ其立法理由ハ(一)被害者ノ贓物還求權行使ヲ容易ナラシムルト(二)財物ニ對スル侵害罪ノ發生ヲ豫防スルトノ二ニ出テス、蓋シ犯罪ニ因リテ失ヒタル贓物ノ還求ハ被害者當然ノ要求ナリ、然ルニ若シ贓物他ニ轉讓センカ途ニ其所在ヲ失ヒ發見ヲ困難ナラシムルニ至ルヘキヲ以テ法律ハ其散逸ヲ防キ以テ贓物還求ヲシテ容易ナラシメンコトヲ期ス是レ本章立法理由ノ一ナリ、又財產ニ關スル罪特ニ強竊盜犯人ト贓物ノ故買者若クハ牙保者等ノ間ニ於ケル實狀ヲ觀ルニ殆ント同一體少ナクトモ後者ハ前者ノ後援機關トモ謂フ可キ地位ニアルヲ以テ財產侵害罪ヲシテ減少セシメンニハ先ツ是等後援機關ヲ剪除スルコトヲ要ス是レ本章立法理由ノ二ナリ

二、本章ハ舊刑法第三編第二章第六節ニ相當スル規定ニシテ左ノ數點ニ於テ修正

セラレタリ

(イ) 舊刑法ニ於テハ強竊盜ノ贓物ト詐欺其他ノ罪ノ贓物トヲ區別シ其刑ヲ異ニシタリシト雖モ之ヲ區別スヘキ立法理由ナキヲ以テ本法ハ之カ區別ヲ認メス

(ロ) 舊刑法ニ於テハ一般ニ贓物ニ關スル罪ノ刑輕キニ失シタル結果實際犯罪豫防ノ效ナク受刑ヲ賭シテ敢テ常業ト爲スノ徒アルニ至ル故ニ本法ハ之ヲ竊盜犯等ノ本罪ト同一視シ科刑懲役十年ニ至ルヲ得セシメタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ收受、寄藏、故買及ヒ牙保ヲ爲シタル者トハ罪狀大ニ異ナルヲ以テ本法ハ之ヲ區別シ其刑ヲ異ニシタル外尙運搬シタル者ヲモ處罰スルコト、ナシタリ

(ニ) 舊刑法ニ於テハ親族關係アル者ノ間ニ於ケル本罪ニ關シ何等規定スル所ナカリシト雖モ夫ノ親族間ニ於ケル罪人隱匿證據湮滅等ノ罪ニ同シク情誼上止ムヲ得サルニ出テタル場合ニ於テハ之ヲ處罰スルノ酷ニ失スル嫌アルヲ以テ本法ハ一定ノ親族關係アル場合ニ於テハ其刑ヲ免除スヘキモノトシタ

三、本章收ムル所僅カニ二條、其内容ヲ別テハ(一)收受罪(第二百五十六條第一項)及(二)運搬、寄藏、故買、牙保罪(第二百五十六條第二項)ノ二トス、左ニ各本條ニ付テ之ヲ略説スヘシ

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ罰ス

本條ハ贓物ノ收受、寄藏、故買、運搬若クハ牙保ノ行爲ヲ罰スル規定ナリ(舊刑法第三百九十九條、第四百一條)

第一項 本項ハ贓物收受ニ關スル規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ニ述フルカ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トス、即チ(一)目的物ハ贓物ナルコト(二)之ヲ收受シタルコト是ナリ

第一要件 目的物ハ贓物ナルコト 所謂贓物トハ犯罪行爲ニ因テ占有ヲ取得シ(例セハ強竊盜詐欺等ニ因テ財物ヲ收得シタル場合)又ハ保持(例セハ委託物ヲ

横領スル場合)シタル有體物ヲ謂フ、故ニ犯罪行爲ニ基因セサルモノハ贓物ト云フヲ得スト、雖モ反對ニ犯罪行爲ニ基因シテ得タル物ハ總テ之ヲ贓物ナリト云フヲ得ス、例セハ賭博罪ニ於ケル賭金、密賣淫ノ對價等ノ如ク縱令得タル原因ハ犯罪行爲ニアリト雖モ民法上所有權移轉ノ效力ヲ生シタル物件ニ關シテハ贓物ナリト云フヲ得サルカ如シ、然レトモ犯罪行爲ニ因リテ得タル物件ナル以上ハ縱令訴追又ハ處罰ノ條件ヲ缺クカ爲メニ犯人カ處刑セラレサルモ猶之ヲ贓物ナリトスルヲ妨ケス、從テ例セハ親族相盜ノ場合ニ於ケルカ如ク若クハ公訴時効ニ罹リタル場合ニ於ケルカ如キニアリテハ學說判例一致スト、雖モ犯罪不成立ノ場合、即チ故意ヲ缺ケル場合及ヒ責任無能力者(十四歲未滿者、精神障礙者)ノ行爲ニ係ル場合ニ於テ贓物アリヤ否ヤニ關シテハ議論岐ル、即チ(一)責任無能力若クハ故意ヲ欠缺シタル場合ニ於テハ根本タル犯罪成立セス從テ贓物ナル觀念ヲ認ムルニ由ナシトスル消極説ト(二)故意ヲ缺ケル場合ニハ贓物ナキモ責任能力ヲ缺キタル場合ニハ贓物アリト云フヲ妨ケストスル折衷説ト(三)責任能力若クハ故意ヲ缺如シタル場合ニ於テハ法律カ唯之ヲ罰セサルニ止マリ其行爲自體ハ不正ナル以上ハ故意ヲ缺ケルト責任能力ヲ缺ケルトヲ區別セス凡テ

贓物アリト云フヲ妨ケストナス積極説アリト雖モ我大審院ハ消極説ヲ採レルモノ、如シ、又一旦犯罪ニ因リテ得タル贓物ナリト雖モ之ヲ材料トシテ加工シ原物ト全ク異ナル程度ニ於テ新物ヲ作製シタル場合ニ於テハ其性質ヲ變スルカ故ニ之ヲ贓物ナリト云フヲ得ス、例セハ木材ヲ竊取シ之ヲ材料トシテ机椅子等ヲ製作シタル場合ノ如キ是ナリ

第二要件 之ヲ收取シタルコト 法律ハ次項ニ於テ特ニ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ノ所爲ヲ處罰シタルヲ以テ茲ニ所謂收受トハ是等行爲ヲ除外シテ贓物ヲ收得シタル一切ノ場合ヲ指スモノト解ス、本場合ノ好適例ハ贓物ノ贈與ヲ受ケタル場合是ナリ、而シテ之ヲ收受スルニ當リ物件カ贓物タルコトヲ知リタルコトヲ要スルハ總則ノ適用上疑ナキ所ナルヲ以テ本法ハ舊刑法ニ於ケルカ如ク知情ヲ一要件トシテ特ニ法文ニ明示セサリシノミ法意ハ舊刑法ニ濫ラス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス、本條ノ刑ハ贓物ニ關スル罪中最輕シ、蓋シ收受ハ他ノ場合ニ比シ害毒少ナシト認メラレタルニ由ルモノカ

第二項 本項ハ贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル罪ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ニ述フルカ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ**(一)目的物ハ贓物ナルコト**、**(二)運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタルコト**、是ナリ、而シテ右第一要件ニ付テハ前項ノ下ニ於テ説明シタル所ニ同シケレハ之ヲ略シ第二要件ニ付キ一言セン

運搬トハ或ル場所ヨリ他ノ場所ニ移轉スルヲ謂ヒ、寄藏トハ贓物ノ寄託ヲ受ケ之ヲ藏匿スルヲ謂ヒ、故買トハ有償名義ニテ贓物ヲ收得スルヲ謂ヒ、民法上ノ賣買、交換、擔保等ヲ含ムト雖モ必スシモ之ヲ自己ノ占有ニ移シ入ル、コトヲ要セズ、牙保トハ贓物ノ處分行爲ノ周旋ヲ爲スヲ謂ヒ、運搬、寄藏ト共ニ有償無償ヲ論セス、而シテ是等行爲ヲ爲スニ際シテモ犯人ハ其贓物タルノ情ヲ知リタルコトヲ要スルハ前項收受罪ニ關シ述ヘタルニ同シ、從テ善意ナル場合ニ於テハ本罪ヲ構成セサルコト勿論ナリト雖モ當初善意ナリシモ物品引渡ノ當時情ヲ知リテ猶ホ且ツ引渡ヲ爲シタル場合ニ於テハ贓物罪成立ストハ夙ニ我大審院ノ判示スル所ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス、本法中體刑ト罰金刑トヲ併科シタルハ實ニ唯本項ノ罪一アルノミ、蓋シ本項ノ罪ノ多クハ貪慾者ニ依リテ犯サル、ヲ常トス故ニ之ニ科スルニ罰金刑ヲ以テシ却テ犯人

ノ得ント欲スル所ヲ失ハシムルコト洵ニ適當ナル懲戒方法タルヘシト雖モ本罪ハ罪質頗ル輕微ナラサルヲ以テ只此刑ヲ以テノミ満足スヘキニ非ラサルコト勿論ナルカ故ニ法律ハ一方ニ其自由ヲ奪フト同時ニ他方ニ於テ併セテ罰金刑ヲ科シタルナリ

第二百五十七條

直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

本條ハ一定ノ親族關係アル者ノ間ニ於テ贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル場合ニ關スル特別規定ニシテ亦新刑法ノ一特色ナリ

第一項 本項ハ一定ノ身分關係アル者ノ贓物罪ヲ犯シタル場合ニ刑ノ免除ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ本項ノ適用ヲ受クルニハ(一)法律ニ限定セル身分關係アル者タルコト、(二)贓物ニ關スル罪ヲ犯シタルコトノ二要件ヲ具備スルヲ要ス而シテ右第二要件ハ前條說明ニ徴シ明白ナルヲ以テ第一要件ニ關シ一言スルニ止メン

直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ贓物ニ關

スル罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ一應親族ノ情誼ニ因リタルモノト推定スヘキカ故ニ強ヒテ之ヲ處罰スルハ酷ニ失スル虞アルヲ以テ法律ハ人情ノ命スル所ニ從ヒ此場合ニ於ケル罪ニ對シテハ其刑ヲ免除シタリ、而シテ本條ハ專ラ本犯ト贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル者トノ間ニ於ケル關係ヲ規定シタルモノナルカ故ニ被害者ト贓物ニ關スル罪ヲ犯シタル者トノ間ニ付テハ本條ノ適用ナキコト勿論ナリ

第二項 本項ハ身分關係ナキ共犯者ニ對スル規定ニシテ法律規定ノ身分關係ナキ共犯者ハ凡テ之ヲ贓物ニ關スル犯人トシテ處罰スヘキコトヲ定ム、蓋シ本條ハ親族間ニ於ケル情誼ヲ重シタル特別趣旨ニ出テタル規定ナルカ故ニ此身分關係ナキ門外漢ニ對シテハ毫モ之ヲ斟酌スヘキ理由存セサルヲ以テナリ

第四十章 毀棄及隱匿ノ罪

一、本章ハ物ヲ毀棄又ハ隱匿シタル罪ニ關スル規定ニシテ舊刑法第三編第二章第十節家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪ト題スル規定ト第二編第四章第三節官文書偽造罪ト題スル規定中ノ官文書毀棄罪ト併セ修補シタルモノニシテ其改正要點ヲ示セハ左ノ如シ、

(イ) 舊刑法ニ於テハ官文書毀棄ニ關スル規定ヲ官文書偽造罪中ニ置キシト雖モ其罪質全ク異ナリテ排列其當ヲ得サリシヲ以テ本法ハ之ヲ本章中ニ移シ況ク公務所ノ用ニ供スル文書ノ毀棄ニ關スル規定ヲ設ケタリ

(ロ) 舊刑法ニ於テハ自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ又ハ物權若クハ賃貸借契約ノ目的物トナリタル場合ニ於テ其物ヲ毀棄シタル行爲ニ關スル規定ヲ缺キタル結果不當ニ處罰ヲ免レタル徒アラシメタリシカ本法ハ之ニ關スル規定ヲ補足シ以テ不逞ノ徒ヲシテ免ル、ヲ得サラシメンコトヲ期シタリ

(ハ) 舊刑法ニ於テハ信書ノ開披ニ關シテハ規定スル所アリシモ之レノミニテハ未タ以テ信書ノ保護ヲ全フスルコトヲ得サルカ故ニ本法ハ更ニ信書ノ隱匿ニ關スル規定ヲ設クルニ至リタリ

二、本章規定スル所凡テ七條其内容ヲ大別スレハ(一)文書毀棄罪第二百五十八條第二百五十九條(二)建造物損壞罪第二百六十條第二百六十二條(三)建造物以外ノ物ノ損壞罪第二百六十一條第二百六十二條及ヒ(四)信書隱匿罪第二百六十三條ノ四トナス、左ニ逐次各本條ニ就キ説明スヘシ

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲

役ニ處ス

本條ハ文書毀棄罪ノ一場合ニシテ公務所ノ用ニ供スル文書ニ關スル規定ナリ舊刑法第二百二條第二項第二百三條第二項第二百五條第二項

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ公務所ノ用ニ供スル文書ナルコト(二)之ヲ毀棄シタルコト是ナリ、左ニ分説スヘシ

第一要件 目的物ハ公務所ノ用ニ供スル文書ナルコト 本罪ノ目的物ハ公務所ノ用ニ供スル文書ナルコトヲ要スルカ故ニ縱令公務員ニヨリ作成セラレタル文書ナリト雖モ既ニ私人ノ手ニ在ルモノニシテ公務所ノ用ニ供スルモノニ非サルモノニ關シテハ本罪ヲ構成セサルト同時ニ縱令私人ノ手ニヨリテ作成セラレタル文書ナリト雖モ苟クモ公務所ノ用ニ供スヘキモノトセラレタル以上ハ本罪ノ目的物タリ得ヘシ所謂公務所ノ用ニ供スルトハ廣ク公務所ノ用ニ充ツヘク公務所ニ於テ保管スル義ニシテ其用途ノ公法關係ニアルト私法關係ニアルトヲ區別セス、前述シタル文書偽造罪ニ於テハ明ニ文書、圖畫ト云ヒタルニ反シ本條ニ於テハ單ニ文書トノミ云フヲ以テ多少ノ異論アランモ予輩ハ本條ニ所謂文書中ニハ文書ト圖畫トヲ含ムモノト解ス

第二要件 之ヲ毀棄シタルコト 所謂文書ハ毀棄トハ敢テ物質的毀傷ヲ必要トセス文書タル效用ノ一部若クハ全部ヲ失ハシムル一切ノ行爲ヲ毀棄ト解ス故ニ例セハ墨汁ヲ以テ塗抹シ其内容ノ如何ヲ不明ニ歸セシメタル場合モ亦所謂毀棄ナリトスルニ付テ會テ異論アルヲ聞カス從テ實際上ニ於テハ文書ノ毀棄ト變造トヲ區別スルコト困難ナル場合アリト雖モ理論上ニ於テハ文書ノ内容ヲ變更シタル場合ハ之ヲ變造ト解スヘク其内容ヲシテ全ク不明ニ歸セシメ文書トシテノ存在ヲ認メ得サル場合ハ之ヲ毀棄ト解ス可キモノト信ス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 權利義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

本條モ亦文書毀棄罪ノ一ニシテ權利義務ニ關スル他人ノ文書ニ關スル場合ノ規定ナリ(舊刑法第四百二十四條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ權利義務ニ關スル他人ノ文書ナルコト(二)之ヲ毀棄シタルコト是ナリ、分説スルコト左ノ如シ

第一要件 目的物ハ權利義務ニ關スル他人ノ文書ナルコト 本罪ノ目的物ハ

權利義務ニ關スル他人ノ文書ナルコトヲ要スルカ故ニ他人ノ文書ニ屬スト雖モ權利義務ニ關セサルモノニ關シテハ本罪成立セス、他人ニ屬スル權利義務ニ關スル文書ナル以上ハ自己ノ作成ニ係ルト他人ノ作成ニ係ルト又公務員ノ作成シタルモノト一私人カ作成シタルモノトヲ區別セス、而シテ權利義務ニ關スル文書ノ意義ニ關シテハ擬ニ文書偽造罪ニ於テ述ハタル所ニ同シケレハ茲ニ再ヒ贅セス

第二要件 之ヲ毀棄シタルコト 是レ既ニ説明シタル所ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス、前條ノ刑ニ比シ目的物輕キヲ以テ科刑モ亦輕キコト蓋シ至當ナルノミ

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス、因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

本條ハ他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル場合ニ關スル規定ナリ(舊刑法第四百十七條)

(甲)前段ノ罪 本段ハ建造物又ハ艦船ノ單純損壞ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ他人ノ建造物又ハ

艦船ナルコト(二)之ヲ損壞シタルコト是ナリ

第一要件 目的物ハ他人ノ建造物又ハ艦船ナルコト 本罪ハ目的物ヲ他人ノ

建造物又ハ艦船ニ限ル故ニ建造物又ハ艦船以外ノ物件ニ係ルトキハ他罪トナ

リテ本罪ヲ構成セス又建造物又ハ艦船ニ係ルト雖モ他人ノ所有ニ屬スルニア

ラサレハ本罪成立セス(但シ一定ノ條件アル場合ニ於ケル除外例アリ)舊刑法ハ

獨リ建造物ニ付テノミ規定シタリシモ艦船ハ之ヲ建造物ト同一視スヘキモノ

ナルヲ以テ本法ハ建造物ノ外ニ艦船ヲ加ヘタリ而シテ建造物及ヒ艦船ノ何タ

ルヤハ彙ニ第百八條ニ於テ説明シタル所ナルヲ以テ同條説明ヲ參照スヘシ、但

シ建造物ノ一部タルヘキ戸、障子、牆壁等ヲ損壞シタル場合ニ於テモ猶之ヲ建造

物ノ損壞罪ナリトシタル判例アリ

第二要件 之ヲ損壞シタルコト 茲ニ所謂損壞トハ物件ノ效用ノ全部若クハ

一部ヲ失ハシムル義ニシテ物質的ニ之ヲ破壞スルノミナラス無形の損壞即チ

例セハ建造物ノ牆壁ニ汚物ヲ塗抹シ以テ其用ヲ失ハシムルカ如キ場合ヲモ包

含スルモノト解スルヲ通説トス、法文ハ手段ニ關シ制限スル所ナキヲ以テ何等

ノ手段ニ因ルヲ論セスト雖モ放火若クハ溢水ニ因リテ損壞シタル場合ニ於ケ

ルカ如ク特ニ規定シアルモノヲ除外スヘキコト勿論ナリ

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

(乙)後段ハ罪 本段ハ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル結果人ヲ死傷ニ致シタル場合

ノ規定ニシテ其成立要件ト處分ハ左ノ如シ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トス、即チ(一)他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞

シタルコト(二)因テ人ヲ死傷ニ致シタルコト是ナリ、而シテ是等要件ハ前段及ヒ第

百二十四條等ノ説明ヲ參照スレハ自ラ了解セラルヘキニ付再說セス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ傷害ノ罪ト前段ノ罪トヲ比較シ重キニ從テ處斷セ

ラルヘシ

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下

ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ物件損壞罪ニ關スル總括的規定ナリ(舊刑法第四百十八條乃至第四百二十

三條)

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ前三條ニ記載シタ

ル以外ノ物ナルコト(二)之ヲ損壞又ハ傷害シタルコト是ナリ分説スルコト左ノ如シ

第一要件

目的物ハ前三條ニ記載シタル以外ハ物ナルコト 舊刑法ニ於テハ

其第四百十八條乃至第四百二十三條ニ於テ各目的物ニ付キ各別ニ規定スル所アリト雖モ此ノ如キハ煩ニ失シ猶且遺漏アルヲ免レス故ニ本法ハ本條ニ總括的規定ヲ設ケ前三條記載ノ目的物以外ノ物ハ舉ケテ之ヲ包含セシムルコト、シタリ從テ舊刑法ニ所謂園池ノ裝飾、田圃ノ樊圍、牧場ノ柵欄、竹木其他ノ植物、經界標、器具、機械、牛馬其他家畜等皆本罪ノ目的物タルヘキナリ

第二要件

之ヲ損壞又ハ傷害シタルコト 損壞ノ意義ハ前述セリ茲ニ損壞ノ

外ニ傷害ナル文詞ヲ加ヘタル所以ハ本條ノ豫期スル所頗ル廣ク其目的物中ニハ牛馬其他家畜ノ類ヲモ包含スルカ故ニ是等物件ニ關シテハ損壞ナル文詞ノ稍不適當ナルカ故ナリ而シテ所謂傷害モ亦廣義ニ解シ有形的ニ例セハ竹木ノ枝根等ヲ切ルカ如キ場合ノミナラス藥物ヲ注キテ之ヲ枯死セシムルカ如キ場合ヲモ含ムモノトス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料

ニ處ス、蓋シ本罪ハ犯情ニ千差萬別アルヘキ性質ノモノナルヲ以テ法律ハ頗ル廣キ範圍ノ刑ヲ定メ裁判所ヲシテ適宜處分セシメントスルナリ

第二百六十二條

自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

本條ハ自己ノ物ト雖モ一定ノ條件ノ下ニ於テハ猶毀棄罪成立スヘキコトヲ規定シタルモノニシテ新刑法ノ補足シタル所ニ屬ス

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス即チ(一)目的物ハ差押ヲ受ケ物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタル自己ノ物タルコト(二)之ヲ損壞又ハ傷害シタルコト是ナリ

而シテ右第二要件ハ前述シタル所ナルヲ以テ茲ニハ第一要件ニ關シ説明スヘシ自己ノ物ト雖モ之ニ關シ他人カ權利關係ヲ有スルニ於テハ之ヲ處分スルカ爲メニ他人ノ權利ヲ侵害スルニ至ルヘキヲ以テ法律ハ其處分權ニ制限ヲ加ヘ之ニ違犯シタルモノヲ處罰ス本條モ此趣旨ニ出テタル規定ニ外ナラス差押ヲ受ケトハ執達吏其他公務員ニ依リテ差押ヘラレタルヲ謂ヒ物權ヲ負擔シトハ民法上其物ノ上ニ他人カ物權例セハ質權、抵當權、留置權、先取特權等ヲ有スル場合ヲ謂ヒ賃貸シタルモノハ民法上賃貸借契約ニ因リ他人カ其物ノ上ニ賃借權ヲ有スル場合

ヲ謂フ、而シテ物權ノ負擔及ヒ賃貸ハ共ニ當事者ノ合意ヲ以テ成立スヘキカ故ニ登記ヲ經由シアリヤ否ヤヲ問ハサルモノト解ス

二、處分 法文ニ前三條ノ例ニ依ルト規定ス、故ニ權利義務ニ關スル文書ニ係ルトキハ第二百五十九條ノ例ニ從ヒ、建造物又ハ艦船ニ係ルトキハ第二百六十條ノ例ニ從ヒ、文書、建造物又ハ艦船以外ノ物ニ係ルトキハ第二百六十一條ノ例ニ從ヒ處分スヘキナリ

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

本條ハ他人ノ信書ヲ隱匿シタル場合ノ規定ニシテ亦本法ノ補足シタル所ナリ

一、成立要件 本罪ノ成立要件ヲ別テ二トナス、即チ(一)目的物ハ他人ノ信書ナルコト(二)之ヲ隱匿シタルコト是ナリ、左ニ分説スヘシ

第一要件 目的物ハ他人ノ信書ナルコト 信書ノ意義ニ關シテハ曩ニ秘密侵害罪ニ於ケル第三百三十三條ノ下ニ説明シタル所ナリ、法文ニ他人ノ信書トアルカ故ニ自己以外ノ者ノ信書タルコトヲ意味シ自己ノ家族ノモノナルト其他以外人ノモノナルトヲ區別セス又自己ノ發信シタルモノナリト雖モ既ニ一旦他人ノ手裡ニ歸シタルモノニ付テハ本罪ヲ構成スヘキモノトス

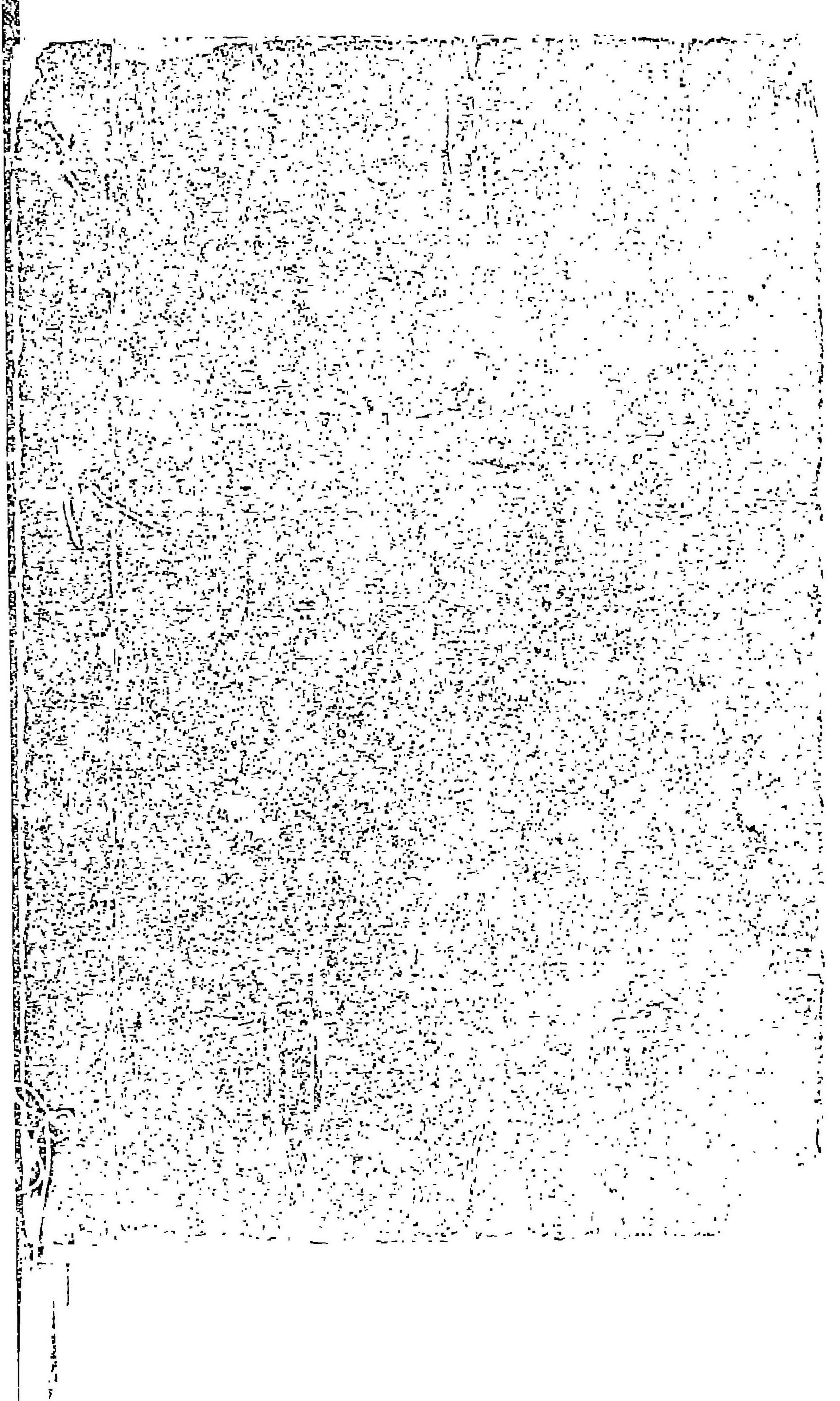
第二要件 之ヲ隱匿シタルコト 所謂隱匿トハ他人ノ發見ヲ妨クヘキ一切ノ行為ヲ意味シ其動機如何ハ敢テ本罪成立ニ影響スル所ナキモノトス

二、處分 本罪ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス、蓋シ本罪ハ罪質輕微且ツ犯情ニ種々アルヘキカ故ニ頗ル廣大ナル刑罰ヲ定メタルモノナリ

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ俟テ之ヲ論ス

本條ハ本章ノ罪中親告罪タルヘキモノヲ規定ス蓋シ第二百五十九條ノ文書毀棄罪、第二百六十一條ノ物件毀損罪及ヒ第二百六十三條ノ信書隱匿罪ハ其罪質重カラス從テ公益ヲ侵害スルコト比較的輕微ナルヘキカ故ニ強ヒテ之ヲ訴追スル要ナシト認メ訴追スルト否ト一ニ被害者ノ自由ニ委シタルモノナリ

刑法講義 畢



7
24

(M)

明治大學四十二年
度
科第 四年
講義錄

035790-000-0

ス-24ニ

刑法逐条講義

満田 寛一/述

[M43?]

BBP-0376

